

◆第9回佐賀県GM21 ミーティング

1 挨拶

(事務局)

それでは第9回佐賀県GM21 ミーティングを開始したいと思います。私は本日運営を担当します、市町支援課長の源五郎丸と申します。よろしくお願いいたします。

本日の出席者につきましては、お手元の会議次第の後に出席者名簿を添付しておりますので、これを持ちまして代えさせていただきます。なお、上峰町の武廣町長さんは御欠席ということで、森副町長さんに御出席をいただいております。よろしくお願いいたします。

それでは、さっそく会議次第にそって、進めさせていただきたいと思います。それでは、開会に当たりまして、佐賀県市長会会長秀島敏行様、佐賀県町村会副会長岸本英雄様、山口佐賀県知事から御挨拶をいただきたいと思います。まず、秀島会長からお願いします。

(秀島佐賀市長)

いつも顔を合わせているので、改めて挨拶することでもございませんが、皆さん共通の意見として、10日程、というか2週間前ですか。福岡豪雨災害、あれは大変でした。一步間違えたらという失礼になりますが、あの雲がもう少し、西の方まで張り出してきたら大変だった。後で身震いするくらいの恐ろしさを感じました。幸いにして、私たちの仲間がそこまで至らなくてホッとした所です。

多くの犠牲者が出ました。お悔み申し上げなければなりませんし、財産を無くされた方にはお見舞いを申し上げなければなりません。

ホッとしたのも束の間、有明海を見てみますと、大変な流木、漂着物がたどり着いておりました。これをどうするのかと、呆然とするような気持ちになったわけですが、いち早く県におかれまして、対応をしていただきました。

一部、この付近の流木や漂流物を誰が整理するのかということ、いわゆる境界争的なものも、やはりあったかもわかりませんが、これからも今回のような漂着物ですね、ちよくちよくといますか、たびたび来そうな感じもしますので、一つの事例としてですね、後、スムーズに対応できるような形を一緒になって考えておかなければならないのかなと思ったところです。

その中で、財政的にもかなり厳しいものがあるという立場で、後で追ってくるんではなかろうかと思ひ、我々、土地改良関係で農水省と国土交通省に要請活動が、提案活動がございました。そのときに、緊急にそういった部分で県が大変な状況であるから、いい資金をですね、出してくださいと、そういうお願いを一緒にさせていただいたところでありませう。

災害はどういうときにどのような形で襲ってくるのかわからないということで、今回の部分はしっかりと、先例として考えていかなければならないのかなと思つたところだ。

少しペースの長い話となつてしまつたが、そういう思ひをした2週間ぐらいの出来事だ。ただ一つ心配だつたのが、消防。

私たちのところは中部広域で消防任務をしているのですが、朝倉、日田の方面で大災害が発生と、鳥栖・三養基までですね、部隊として要請が出たということで、あれは一步間違ふとすぐ戻つてこなければいけないような状況になつたのではなかろうかなと。

だから、そういった部分も含めて今後検討しないといけないのかと。気象学的なものが頭の中に無いから、こういうことを言っているのかも分からないけれども、ある程度一つ先を見たところでの対応も必要ではないのかなと。

今回何もなかつたからよかつたものですね、そういうのを考えさせられました。以上でございます。

(事務局)

ありがとうございます。岸本副会長。

(岸本玄海町長)

今日は、町村会末安会長がどうしても出席できないということで、私が代わりに挨拶ということになっておりますが、たいした挨拶はできないので、まずは今日の宿泊施設の整備と高速道路の活用について、十分皆さんの御意見を聞かせていただきたい、私どもの提案をしっかりと聞いていただきたいということでありませう。

今、秀島市長さんがおっしゃっていただいたこと、実は、今回の集中豪雨に関しては、たぶん唐津市長さんもそう思つておられると思ひますが、我々の地域はさほど雨が降っておりませう。実際に私どものダムが40パーセントぐらいまで下がっていた貯水率がやつと70%までなつたかな。実はそれだけ地域間格差というか、集中豪雨に

地域間格差があるはずはないのですが、地域地域で局所によって酷い雨が降っている。

特に朝倉なんかは、本当に私は時々遊びに行くのですが、あんなに酷いことになるとは想像もしていなかったもので、そういうことを考えると、地球温暖化というか、この気象の変化というのは、私どもも、一地方ながら、一小さい自治体ながら、住民の皆さんに対する対処の方法を、今後考えざるを得ないなと強く感じました。

ぜひ、地球温暖化も含めて、最後何に帰結するかということ、原子力発電所の稼働もしっかり進めていただかないといけないかなということにも繋がりますし、それだけではなくて、気象については他のことも言われる方もいっぱいいらっしゃいますので、それを踏まえた上で、天災だからという言い訳がきかない社会に今後なっていくのだろうと。地球がしっかりとした人の住まいとして、それから生物の住まいとして住める地域になっていくこと、地球になっていくことを、我々も小さい範囲ながら今後考えていたいと思いますので、知事さんにはさらに大きく考えていただきますようお願いを申し上げて、挨拶に代えさせていただきたいと思います。

(事務局)

ありがとうございます。それでは山口知事。

(山口知事)

はい、それでは皆さんお疲れ様です。豪雨災害に関しましては被災地の皆さん方からここからお見舞いを申し上げたいと思います。

そして、特に佐賀県は、一生懸命応援させていただきました。特に、これは、今日は市長さん、町長さんおられますけれども、緊急消防援助隊、市町の消防の皆がですね、日田をベースに、未だ朝倉で活動されております。交代交代でもう 60 名になるでしょうか。非常に士気も高くて、みんな一生懸命やっておりますが、ただ1点、秀島市長さんも触れられましたけれども、一般論になるのでしょうかけれども、やはり消防の部隊というのは、地域を守るということと、やっぱりハイパーレスキューなので、高度な救助技術を持っています。スピーディーにしっかりと援助してですね、しっかりとある程度のところでということも必要なのかなという風に思います。

その辺は指揮官の方が考えてですね、どういう風な展開をするのかということについては、もう少し検証が必要なのかなという風に思います。

それから、今回の豪雨は、やはり我々もう一度考えないといけないことは、岸本町長からも若干触れられましたけれども、上流、山の公益機能というものをしっかりと

もっともっと国民が考えていけないのではないかと。深層崩壊の話もありますし、やはり、大きな影響があります。普段から上流と下流の関係というか、下流民には上流民に感謝してというところで、森林もそうです。

今回も間伐をしっかりとやるという話もありますけれども、そういうお互いを思い合うような、そういうような地域を普段から作っていく必要があるのかなということ。

それから、有明海にも、非常に多くの流木が流れ着いて、どんどん増えていくような状況で、しかも、それぞれ管理者が違っていたりしたものですから、非常にこれからも含めて大変な作業となる。これはしっかり県として、漁業者などと連携を取りながら、先ほど、境なんかですね、しっかりと我々が責任をもってやるぐらいの、要するに市町にだいぶ負担がいくと思いますので、県としてしっかり支えていきたいという風に思っています。有明海は我々にとって命の海なので、早急に回復できるようにという風に思っています。

今日は、初めて県庁で開催させていただくということで、あまり考えてなかったのですが、一つは、今、県庁はアート県庁ということで、県庁自体に、県民の皆さん方に親しんでいただくということで、様々な取組をしています。今日見ていただく県庁クラスもそうですし、夜、視察いただくプロジェクションマッピング、屋上もそうですけれども、色んな、あと入口のところもですね、来たお客さんが喜んでもらう仕掛けをしたりとか、できる限り、公共財であっても県民の皆さん方に解放されたような形で喜んでいただける、そして、ひいては色んな意見が言いやすいような、そういうような環境を作っていきたいなという風に思いますので、今回は県庁でということで、ちょっと無理言って、来ていただきました。

もし、どこかの市町で、役場でやりたいということでやりたいというところがありましたら、私も出向いていきますので。今日はそういったことでお許しいただきたいと思えます。

今日も普段どおり、闊達な議論ができるようにしたいと思えますので、そして今日は町からも提案事項も出てきて、わたしはそれが非常に嬉しくて。そういったこともしっかりと、我々として、対応をしていきたいと思えます。本日はありがとうございます。

2 町村会提案テーマ

宿泊施設の整備について

(事務局)

それでは、早速意見交換の方に入ってまいりたいと思います。次第の2でございます。町村会提案テーマ、2本ございます。この部分の進行を町村会事務局にお願いいたします。

(町村会事務局長)

町村会事務局長の大田でございます。今回のGM21 ミーティングにつきましては、次第にもありますが、宿泊施設の整備について、これは吉野ヶ里町さんからの提案でございます。それから、高速道路を活用したさがさいこうプロジェクトについて、これは基山町さんからの提案でございます。この2つのテーマについて意見交換をしていただきます。司会につきましては、町村会副会長であります、岸本玄海町長に代表で務めていただきます。それでは岸本副会長どうぞよろしくお願いいたします。

(岸本玄海町長)

始めに、宿泊施設の整備について、吉野ヶ里町から、ぜひ趣旨の説明をお願いしたいと思います。

(吉野ヶ里町長)

吉野ヶ里町でございます。今日は提案の機会をいただきましたことをお礼申し上げます。と思います。

それに先立ちまして、先程の知事報告の豪雨について、私の吉野ヶ里町は、7年前土石流が発生して、人の命には関わりはなかったのですが、土石流が発生して、その材木が有明海まで流れたということが7年前にございました。

そういう中で、山の管理というのが、現在、非常にもう放置された状態で、ここ1年の内に、子供が東京なり遠くにいる皆さんのところの、一人暮らしの方のところは空き家になり、そして子供たちは財産放棄ということで、一人のところは屋敷跡だけは残してくれ、もう一人は全部いらぬ、ということで財産放棄の段階にきてます。

そうなってくると、もう自分の山がどこにあるかも、周りがどうなっているかも分からないということが、今、もう現実に吉野ヶ里町にあるということで、44haの中に約4割が山林でございます。林道も相当入っていますし、今後、先日の2週間前の豪雨が4、50キロこっちにずれていたらどうなっただろうかというのが、非常に危惧す

るところです。

ちょっと違う話になってしまいましたけれども、前段、そういう風に思いました。

今日は、宿泊施設の整備についてということで、テーマで挙げさせていただいております。

これは、吉野ヶ里町、今後、まち・ひと・しごとという中で、いろんな企業誘致なり、活性化を図ろうとしていますけれども、国全体又県の動きとして、観光に今後力を入れていって、定住人口＋交流人口をいかに増やしていくのか、そして滞在をいかに長くしてもらおうのかというのが町の課題でもありますし、そういう中で今後の動向なりなんなり、それと各市町や県のお考えが聞かせていただければと思って提案をさせていただいたところでございます。

大きなテーマで、宿泊施設の整備についてとし、3つの項目に分けております。

まずは佐賀県内の宿泊施設の実態と課題を把握したいということと、今後の取組について皆さん方の御意見をいただきたい。

そして3つ上げていますけど、1つめが、「多様化する観光客のニーズへの変化への対策」ということで、宿泊施設の確保というのは喫緊の課題ではないのかというのがありました。

2番目に「外国人の観光客の受入れについて」ということで、近年は外国人の観光客が多くなってきたというお話は聞きます。それについて、どういう取組、留意点があるのか、それと、現在シェアハウスという言葉が出てきていたり、民泊のニーズの有無といったものが出ております。これについて、外国人受入れについて、今後どう取り組んでいけばいいのかというのがあります。提案させていただいております。

3番目に、6年後には開催されます「国体や全国障害者スポーツ大会の宿泊施設の確保について」ということで、これについては大会を開くならば県民の協力支援は絶対に必要なことであり、今後の宿泊施設の確保についての計画を聞かせていただきたいということで、時期的にはまだ早すぎるかも分かりませんが、いろんな観光面を含めて宿泊施設の対策というのは重要ということで、提案をいたしております。

1項目ずつ、もう少し詳細についてお話をしたいと思います。

内容を若干掘り下げて説明させていただきますと、団体観光客、これまでは団体だったのが、小グループとか、個人等の観光に移行しつつあるということと、観光地巡りから、これからは体験又は食へのこだわりの観光客が多くなったという風なことで

ございます。

国におかれましては、観光による地域づくりで経済活性化を図り、各市町なり地域は観光での地域の活性化を図るようというところで、平成 20 年の 10 月には国土交通省に観光庁が設置されています。そういう中で、国土交通省だけでなく農林水産省なり経済産業省、環境省などなど、国としても一体化を持って総合的に力を入れていこうという動きがあるわけです。

それを受けて、県としても泊・食（ぱくぱく）佐賀旅キャンペーン等で誘客促進をされているというような状況です。内容を聞いてみますと、平成 28 年度には佐賀県への宿泊が約 300 万人と聞いております。昨年と比べて 3%、103%の伸びということで、今後の誘客目標数値というものはどういう風に設定されているのか。また、宿泊施設の不足という見込みがありますけども、今後の観光客のニーズの多様化に応える必要があると。そういったものの取組なり、今どういう状況なのか、その辺のことを聞かせていただければということで、県内の宿泊施設の不足対策の必要性、どのように考えているのかを教えてください。

その次に、既存の旅館・ホテル以外に、それで足りるのか、それとも民泊等の取組や対策を今後考えられるのか。これについては、佐賀県や各市町の取組について教えてくださいという風に思っています。

吉野ヶ里町としましては、今、町内にビジネスホテルが1つと、ビジネスマン相手の小さな旅館が一つあるだけでございます。今後、観光に力を入れて滞在時間を伸ばすのというのは、宿泊施設の取組も考えなければならないのではなかろうかということで、温浴施設を持っていますので、その近くにコテージなり、なんなりを考えていければとか、オートキャンプ場なり、そういったものの取組も視野に入れていきたいという思いで、ここに計上させていただいています。

二番目ですけども、外国人観光客の受入れについてということで、外国人観光客の県内宿泊の実態と目標数値についてということで上げております。団体客に比べて小グループや家族の割合は、外国の皆さんはどのような状況なのか。それで、先ほどの数字と一緒にですけども、平成 28 年は佐賀県での外国人の宿泊は 25 万人と聞いております。これについての現状と見通しですけども、①で、外国人にニーズの高い宿泊施設はどのようなものが人気が高いのか、そういったことが分かれば教えてください。

それと、シェアハウス、民泊のニーズは、外国人についてどのように捉えているの

か、県内ではどのくらい、このシェアハウス、民泊が実態としてあるのかというようなことを知りたいと思っております。

民泊の新法、住宅宿泊事業法というものが成立して、平成 30 年 1 月以降に施行予定と聞いております。県がシェアリングエコノミーの推進を行う計画があるのか、この辺をお尋ねしたいということで、もしそういう計画があれば、各市町を含めた住宅宿泊への取組と研修会の開催をぜひともお願いをしていきたいと思っております。

次は 6 年後のことですけれども、国民体育大会、全国障害者スポーツ大会の宿泊施設の確保についてということで、先月だったですかね、6 月 5 日に準備委員会の第 3 回総会の開催がありました。

そのときに、宿泊施設の調査というものを J T B 佐賀がされるということで、平成 28 年の 8 月から 12 月までかけて行う中で、調査対象が県内で約 500 か所、それと県外で約 500、うち福岡 350、長崎 150 というような数字が出ておりましたので、その辺でどのような捉え方をされているのかも教えていただきたいと思えます。

この国民体育大会、全国障害者スポーツ大会を成功させるためには、宿泊施設の確保というものは避けて通れないことだという風に思いますし、また、6 年後というよりも、色んな大会を誘致するとか、3 年後には東京オリンピック、パラリンピック等もありますので、全国的な外国のお客様を含めて、観光客が見えるのではなかろうか、それに対する対応を考えていきたい。

国体につきましては、県内の宿泊施設でどのくらい対応が、現在できるということで、先程の調査の内容の結果を教えていただければと思います。それと、前回、佐賀国体がございましたけれども、その時にどういう宿泊の受入れを取り組まれたのか、その辺のことを教えていただければというようなことです。それと、空き家対策とか民泊の活用・推進、合わせて取り組まれるのかということでございます。それと、一番下のところですがけれども、県民による協力体制は絶対に必要ではなかろうかと、大会を、国体を盛り上げると同時に、県民の皆さんに盛り上げて、宿泊等の協力をいただくというものは必要ではなかろうかと、そういう風に思っております。それと、私どものように宿泊施設を有しない市町は、今後、どうしたらいいのかという見通しが立ちませんし、前回の佐賀国体のときにどういう取組をして推薦されたのかを教えていただければ、ヒントになればという風に思います。

こういうような中で、佐賀県、観光を含めた色んなイベント、スポーツ大会なりを

含めたことに対する宿泊施設の佐賀県の今後の見通しなりを、皆さんの御意見等をいただければということで提案をさせていただきました。以上でございます。

(岸本玄海町長)

できれば、県の方からお答えをまずいただけたらと思います。

(山口知事)

今、佐賀県は宿泊客がすごく伸びている。特に外国人関係は常に、1位、2位、3位の中で、九州佐賀国際空港の勢いも含めてある。実際、外国人の宿泊客数の25万人のうち半分は嬉野と佐賀らしいです。それで、実際、足りないという苦情も多い。

数字は後で局長から話をさせますけど、足りないのかというと、年間を通していう稼働率という全体の観点からすると、佐賀県はまだバッファがある、余裕があるということなんです。もちろん、季節的な問題だとか旅館の問題という個別の事情はあるものの、全体とするとまだ受入キャパはあるよねという話がありました。それが皆さんの実感とはどうなんだろうかということ。

それと、ニーズはもう本当にばらばらで、すごい高級旅館に泊まりたいという日本人なり外国人もいる反面で、むしろ安いとこでないと泊まらないという、野宿でも構わないという。今回、駅の向こう側にはがくれというあれも作りましたが、そういう安いところに泊まりたい人とか、本当、用途によってバラバラ。昔みたいに、団体旅行して、団体で、皆で宴会すればいいという時代でもなくて、FIT（海外個人旅行）、個人的な客も非常に多いし、特にうちはレンタカーを非常に推奨しているもので、レンタカーの客も多いものだから、そういう様々なニーズにどうキャッチアップしていくのかということが実は大きな課題なのだろうなという風に思っています。その中で、民泊なんかも考えていく課題なのかなと。

ですから、何か足りないから民泊で埋めていこうということではなく、むしろ、特徴のある民泊だから、むしろ民泊を狙ってくるような人をターゲットに考えていくというのが非常に佐賀らしくていいのかなと。逆に言えば、特徴のない、単に泊まるようなところは非常に稼働率が低い状況にあるということが言えるのかなという風に思います。

先月かな。初めて上海からの入込み（観光客）は長崎県を抜きました。ちょっと言えば、宮崎県も抜きました。年間トータル宿泊者数ですね。非常に右肩上がりなのだけど、それでも全体としてはまだパイがあるというところはちょっと不思議な感じが

するんですけど。足らん気がするんですけど。その辺が、逆に言えば、まだ稼働率が低いところはどういうところなのかということなんかとも言えるだろうということです。

それから国体、ちょっとこれ別かな。こいつは、一時期にいっぱい集まってくるので、競技団体別にまとめて民泊をお願いしないといけないところも出てくるので、これはまさに国体事務局の中で、どういう風にしてその期間を対処していくのかなという話なので、これはこれでしっかりやっていきたいと思います。

是非、県としてお伺いしたいのは実情としてどうなのか、例えば武雄とか太良とかは、どの程度外国人なんか宿泊されてるのかなとか。数字ある。短く。

(白井文化・スポーツ局長)

今おっしゃった様に 304 万人が平成 28 年度宿泊されています。これは外国人も日本人も合わせてですね。

客室稼働率というのが 56.3%となっていて、一般的に、大阪・東京あたりで満杯だといわれているのが 80%強ぐらいです。それを考えますと、仮にうまく効率よく回れば 80%になるとすれば、300 万人が 430 万人ぐらいになる。

一般的な観光による泊りと、スポーツ、国体みたいな泊りの場合は、4 人部屋に普通 2 人泊まれるようなケースが多いですので、そういった意味では客室稼働率ではなくて、もう一つ、定員稼働率という考え方がありまして、その場合には、304 万人というのは、定員稼働率でいうと 35.5%です。一般的に国体の場合はぎゅうぎゅう詰めに、効率よく配宿させますので、そうなると、実質ですね、304 万人が 680 万人ぐらいになる。

まあ、余力があるということで、そう見えるかと思いますが、これは一瞬、瞬間瞬間で対処しないといけないので、必ずしも、理想どおりにはいかないという現状になります。

(山口知事)

嬉野はどう？

(谷口嬉野市長)

さっきお話しいただきましたように、県始め色々な御支援を頂いて、おかげさまで、非常に海外のお客様が来ていただいているということで、大変喜んでますけど、おそらく今年の新記録になるんじゃないかということで、非常に、今、私どもにとっていい形で動いてますのは、海外のお客様がですね、平日利用のお客様が非常に多いとい

うこと。

国内のお客様が大体土日の利用が多いので、空き部屋になります平日の利用を海外の方がしていただくと。これを小グループとか家族グループで来ていただきますので、安定して来ていただいているというところが非常に私どもにとっては、海外のお客さまが来ていただいて、街全体が活気づくという形になっているところです。

それに加えて、今、東京オリンピックに向けてのキャンプ地の活動もしております、少しずつ動きが出てきたなという風に思っています。

また、国体に向けても既に動いております、国体のある種目によっては、うちの方でプレ国体の大会も入れるとか、その前の高校生の大会であるとか、既に動きがあります。非常に追い風が出てきているなという風に思います。

それで、非常に私、心配しましたのが、ちょうど3、4日前です。大体、私は民泊に反対なのですが、福岡で厳しい事件が起きました。韓国の女性の方が被害に遭っている。

本当にあってはならないことで、私はそうしたことを一番心配して、民泊を受けるには、民泊の安全性とか、衛生面とか、治安の面とか、そういうのもしっかりやらないと。簡単に民泊を導入すると非常に厳しいという風に思っていますね、考えていたところでございました。それが、現実の問題として、事件が起きたということですので、国全体として観光に大きなマイナスになるのではないかと。ああいう事件は二度と起こさないようにしなくちゃいけない。

そういうことで、民泊の件については、私は前の国体の時にも民泊をいたしましたけれども、やっぱり普通の民泊と知事が言われたように、国体の民泊はまた違うのではないかと思います。本当に国体の選手を暖かくお迎えして、競技にベストの状態で挑んでいただくという風なことで、県民の温かい気持ちが伝わるようにしなければと思いますので、普通の民泊とは切り離れた、ビジネス以外のところで、佐賀県の温かさを伝えていくべきではないかなと。

それと国体、特に注意しないといけないのは、実は、長崎国体が開催されたときに、私達も長崎の方に御挨拶に行って、相当多くのお客様を嬉野にお受けいたしました。

なぜかと言いますと、選手やコーチが泊まられますと、競技場から30分超える宿泊施設は競技に影響があるということで、嫌われる。例えば大村であったり、それから諫早であったり、そこまでは、長崎県内の遠いところよりも佐賀に泊ませようと

いうことでお受けしたこともありますので、そこらは隣県の方と協議をしながら、全体的に国体が成功するように動けばいいのではないかなと思います。

(山口知事)

吉野ヶ里の温泉施設は結構入っている？

(多良吉野ヶ里町長)

宿泊がないので。だから、そこにコテージなり、なんなりで、ミニ合宿みたいなものができるようなアリーナを建てようとしていますので、それとセットにして、コテージのいくつかを設置できればなど、今思っているところです。

(山口知事)

神埼もなかった。宿泊施設があまりないって。

(松本神埼市長)

ないですね。ホテルも閉めているような状態です。非常に残念なことで、私どものところも、前回の国体の時も、ほとんど全部が民泊です。

(山口知事)

国体はね。普段の民泊は、品質管理しとかなないと、色んな人が入ってくるから。しっかり整理しとかなないと、事件が起きてからでは。

(松本神埼市長)

ちょっと感じることは、前回の国体の時と、住民の方の気持ちが違うと思います。今度の国体は。というのは、田舎の方はもっとその頃はまだ活気があった。今、人口減っているのですよ。高齢化しているのです。

(山口知事)

前の国体に比べれば。

(松本神埼市長)

ああ、全然。だから、おもてなしというか、そういったのがうまくいくのかなという心配をしています。

(岸本玄海町長)

実際には、佐賀県は10年前に高校総体をやっています。その時の形態というのはある程度、今の県の職員さんも、それから我々地方の人間もある程度分かっています。それにどう準じていくか。今、松本市長さんが言われたように、意識はだいぶ変わっているのではないかという気はします。

ただ、知事さんがおっしゃったように、国体とか全国障害者スポーツ大会の場合と普段の宿泊施設とは様子が違うと私も思っています。

(山口知事)

それとは別として扱った方がいいと。これはこれでしっかりやるので。今、武雄とかはどうなの。普段。今、入ってますか。

(小松武雄市長)

そうですね、数字で見ると。

外国人の話でいいですか。外国人観光客だと24年が2,000人くらい来ていたのですけど、27年で9,400人くらい来て、5倍ぐらいに伸びた。まあ、数はまだまだですけども。12,000人ぐらいにしていきたいということはありません。

例えば、うちだと韓国人はオルレに来て、そしてお泊りになる。富裕層は、例えば竹林亭に泊まりに来るとかです。あとは、シンガポールの方が田植えをしに来るとか、そういったテーマ別、テーマというところに合わせて来られたりと、そういったことが最近多い。

確かに、町で韓国人の方がグループで歩いている姿は、本当に今年に入ってから特に見るようになってきたので、市民の皆さんの意識としても、ああ、外国人の方はよく佐賀に来られているという風に見方が変わってきたのではないかと思います。うちの場合は。

あとは、以前、知事と一緒に出張行かしていただきました、タイ。本当は伸ばしたいのですけど。例えば、鹿島、祐徳さんに来られても、なかなか、どう引っ張ってくるかというか、そこが、まだまだできてなくて。

お互いに県内で、うちだとシンガポール人、韓国人が来られている。それで、来られているのをどう、県内の他のところに繋ぐか。逆に、タイの方を繋いでいただくか。なにか県内でも相互に、遣りあいができればいいなと思っています。

(山口知事)

相互になあ。あまり横に動かないものね。今、韓国便もここ2か月ばかり、デイリーになってから、ほぼ満杯。ほぼ向こうからのインバウンドばかり。台湾便は今100%インバウンドで、(搭乗率が)ほぼ90何パーセント。佐賀空港だけですごい勢い。もっとこれから、これが伸びていく時代になっていく。

(松田基山町長)

民泊というよりエアビーアンドビー（Airbnb）にどういう対応を考えていくか。特に、福岡佐賀は目茶苦茶数が増え始めているので、そのあたりは逆に、県さんとか、まだ基山町にはないのですが、おそらく基山町もこれからどんどんできてくると空き家ができてくると、いわゆるニーズとシーズのシーズができてくるということになりますので、その辺は、どう考えられているのかなと思うのですが、いかがですか。福岡の問題も、エアビーアンドビーに登録されたとかいう話もありますけど。多いですよ、佐賀県も。

（秀島佐賀市長）

佐賀市はまた事情が違うかも知れないけれど、いわゆる佐賀空港との絡みで、外国の人の泊まりは、数字的には平成24年が6,720という数字。1年ですね。それが、今はその10倍、6万9千を超えるくらいに増えている。

そういう中で、キャパがどうなのかというと、まだ伸びしろがあるという感じで、ホテル業界もそれとなく立地というか、進出したいという話はあるようですが、具体的に作るころまでは行ってないという状況ですね。

佐賀での宿泊可能人数は、施設が35で、3,400人を超えるぐらいのキャパで推移している。そのことについて行政的には、進め方は、今はまだできていないような状況であって、今の受入体制の中でどれくらい稼働率が上がってくるのか、そういったものを見届けたいという気持ちです。

外国からおいでのお客さんに対する役所の手立てというのは、佐賀大学等の留学生を使って、交通機関を含めて、対応できるような体制を今作っている。専門のグループをつくって、そういうものを対応している。だから、当面、福岡で催し物があって宿舎が足らなくて、佐賀に流れてくるといって、そういうものも聞きますので、もう少し増えてもいいかなと。そして、・・・

（山口知事）

よく言われるのが、ベッドが小さいって。外国人は足が出ると。

（秀島佐賀市長）

身長が、2m用があるのですか。

（山口知事）

スポーツ合宿とかスポーツ選手って、基本的にガタイがでかいので、嬉野でちょっと小さいと言われると。だから、もし、なんか改修するときは、外国人用室でも。

(秀島佐賀市長)

もう、古いタイプになってしまっているのですかね、佐賀市のは。

(山口知事)

あれ、伊万里の民泊とか、外国人来ていますか。

(塚部伊万里市長)

民泊での外国人の受入れでは、数制的なものは掴んでいませんけど、うちの方は、西九州自動車道が福岡の方と通じまして、27年2月に市内まで開通したんですけど、福岡から客を呼び込もうと、平成24年を観光元年として、集中的に福岡側に対しての観光PRを企画しております。かなり成果が上がってきてまして、例えば大川内山への観光バスが30%増とか、かなり増えてきておりまして、宿泊数も、データが27年と古いですが、前年度の67%増とか。

外国人の観光客についても、29年、今年の5月までで前年比で300%。そういう。

(山口知事)

長崎の松浦だね。

(塚部伊万里市長)

松浦は、グリーンツーリズム。

(山口知事)

松浦がメッカ。民泊の。伊万里もそれに参画しだして。日本のメッカやからね。

(多良吉野ヶ里町長)

体験型のグリーンツーリズムに力入れられているので。できれば、私としては、そういった里山体験ができる環境を整えていければなあというのが。それも、高校生なりなんなりというのが、大阪方面から、今、新幹線でちょうどいい距離らしいです。修学旅行に佐賀県の方は。

そういう中で、なんか、そういったものが年間通じてできればなど。

(山口知事)

だから、たぶん稼働率の数の問題ではなくて、ニーズに合ったものを作ったら、必ず、今、間違いなく来るので、そういうものを作ることができるかどうかということ。

これを見ても、稼働していないのは、昔からある一般旅館。なんというのか、単なる簡易宿所みたいな、こういうところは数字が出ていない。だから、どういうものをつくっていくのかということ。

(塚部伊万里市長)

民泊のシーカヤックとか、農業体験とか。そういう、体験民泊みたいなものを。

知事さんにも行っていただきました、山ぼうし。あそこら辺でも、韓国からのお客さんとか、そういうのもある程度来ます。

(山口知事)

鳥栖は？

(橋本鳥栖市長)

鳥栖は観光というよりも働く場。一応、宿泊でいくと 1,300~400 室ホテルありますけど、まあまあ、それなりに埋まっている。たぶん、ホテルとかも、御進出いただいても、普段回せなければ意味がないので。イベントに合わせて進出するという話ではないだろうと。

ただ、鳥栖の場合には高級ホテルはありませんので。例えば、ハイマットを作った時にも、海外の富裕層をとという話もあったのですが、メイドを連れてくるには、スイートルームが要る。一泊 20 万~30 万円は当たり前という世界。ちょっとそこは難しい。

鳥栖はどっちかという住む方が増えてきていて、鳥栖市内のコンビニエンスストアの店員さんはほとんど外国人の方となっています。おそらく次は飲食店のサービスの方が外国の方になる。コンビニエンスストアの弁当を作る工場がありますけれども、その工場の一つの登録外国人数は 500 人です。ですから、町として用意しているのは、例えば、住民票とか諸々の申請書なり、全部日本語と英語の併記にしていますし、公共施設の案内では 4 か国語以上は当たり前。ホームページも日本語と英語と、やさしい日本語といって小学校低学年で理解できる表現に改めた日本語のホームページも作って開設しています。町として海外の方ウエルカムというようなベースを作っておくと後は自然と言葉の問題は無いから来やすくなる。例えば、アウトレットがありますが、あそこはだいたいお客の 3 割は外国の方です。年間 580 万人見えられていますので、100 万人近い方が日々行き来しているので、外国の方は当たり前。普段どう対応をすることの方が大事なのかな。

(樋口鹿島市長)

今、宿泊の話が議論されていますが、私どもは正直言って泊まるところが無いのですが、人は結構来ている。そこで、どういうふう考えた方がいいか。

勝手ですが、4分類について話を進めています。

一つはピンポイントで鹿島に来て帰る。これは一番知られているのは大学の駅伝合宿が、だいたい平均して6つの大学が、2月か3月にかけて来ている。これで一つだけありますホテルがほぼ満室ということなのです。それにくっついて祐徳マラソンが続けてありますから、2月3月はおおむねこれで。最後は酒蔵ツーリズムというのがくっつきますからもうその辺は一つのホテル、ピンポイントのタイプが一つですね。

二つめは観光です。これは今、嬉野市さんと太良町さんと一緒になって、佐賀県南西部の観光人口協議会というのを作ってしまして、ここはある意味住み分けです。

うちは、さっき言われたように、祐徳院にお見えになってもお泊まりにならないのです。泊まりは嬉野だったり太良だったり。これはこれである意味いいと思っています。わざわざ競争してまた新しく作っても、結局、稼働率を下げるだけになります。そこは無理してつくるかどうかは別の判断。

三つ目はその中間タイプでして。酒蔵ツーリズムとガタリンピックに来ているのです。観光みたいであるけども、他についでにと、なかなか回るタイプの人達ではないです。なかには回ります。ついでに出ていると。

だから、この3つのタイプをどういう風に泊めるというのですかね、滞在時間を伸ばすかという風になるのではないのでしょうか。

四つ目が、これからおそらく議題になるのではないか、課題になるんではないか、体験型です。もう、町に行くのは飽きたと。田植えに行って一生懸命田んぼを見て、なんか帰るとかですね、その4つぐらいかな。

そうすると、今言っている民泊というのは、どれでもいいのではなくて、私が勝手に分析しているのは、第四分類が、一番ですね、似合うという気がしているのです。

昨日実は、ガタの国からという映画が流れまして、もう問い合わせがきている。一つ残念なのは、(ガタに) 入りたいというのですよ。飛び込みたいと。

ところが、流木が今いっぱいあそこにある。だから、県にもお願いして、とにかく、佐賀の東与賀海岸と、うちのラムサールの対象になっているところと、ガタリンピックの会場だけは、早急に綺麗にしたい。

そうしないと、今からシーズンになると、予定していた人の上乗せが、今から来ます。あの映画を見てですね。もう問合せが来ています。断るのはもったいないなと思いますので。是非、どうかしてください。

やってもらっているのです。優先的に除けてもらっていますから。しかし、飛び込むところは除けるだけではだめなんです。入りますから。だから、ガラス瓶から、色んな釘だ、缶詰の缶だとか、もう一回綺麗にとらないといけない。これ、労力と費用を食いますので、よろしくをお願いします。

(山口知事)

はい。

(樋口鹿島市長)

あと、さっきのピンポイントで言うておきますと、駅伝だけでなく、最近ですね、おかげさまで、浜という町が、白壁どおりというか、酒蔵通り。色んなところで本に載せてもらいまして。今日もまだ居ると思いますよ。タイ、インドネシア、それからウィーン工科大学から、70名近く生徒が来ています。今、泊まっています。彼らは贅沢はいりません。古民家でいい。冷房付いてればいいという話ですから。

そんなことで、だから、色んなタイプがいるので。あんまり、整備してやって、きちんと考えるということではなくてもいいのかなという気もいたしております。

(山口知事)

全くそうだよ。有田なんて、むしろ、あの町並みだ、ああいうところに泊まりたいという人が多い。壊して変なものつくるよりは、よほど、今の町わいに合ったようなものが少しずつ増えています。

(山口有田町長)

宿泊に関しては、広域に考えていかないと。あくまでビジネスですから。やはり年間通しての需要。結局、何の目的で訪れられるのか。そういうことを考えると、隣には伊万里市もあるし、武雄も嬉野もある。それこそ、本当に素晴らしい施設があるので、わざわざそれに対抗して作るのかという。

ただ、先ほど体験とかそういうニーズに関しては、対応を考えています。

(横尾多久市長)

いいですか、最後から2番目。

(岸本玄海町長)

はい、最後にします。

(横尾多久市長)

二つです。一つは、東京発、羽田発佐賀行の飛行機に乗ったら、隣の人達が皆、ツ

アー客でした。何しているのか横で見ているのですが、すぐにアンケートが取られて、どこ行きたいですかと。佐賀空港についてから、佐賀県内とどまることを選ぶ人は決して多くないと思いました。つい、外に出ていくわけです。

便利だから佐賀空港、LCCだから佐賀空港。あと、どう留めるかって、やっぱり、皆で、県を中心に考えた方がいいかなというのが1点です。

もう一つは、先ほど吉野ヶ里町長さんの意見であったシェアリングなんですけど、シェアリングシティ宣言していただいて、準備始めてますけど、色んな可能性があると思っています。

さっき出た民泊の問題は問題として、海外の例とかも情報を聞くと、じゃらんとか色んなネットに参入するように、エアビーアンドビーに小規模旅館は登録可能になっているらしいのです。そうすると、海外からのSNSを使った参加率が格段にあがっていくわけです。そこを割り切ってやるかどうかが一つです。

それと、熱海が実はシェアリングエコノミーと一緒に入ろうかとされたときに、熱海市が、ちょっと今、待たれているのです。理由は旅館・ホテル組合が反対と。これはタクシー・ハイヤー業界と一緒になんですけど、彼らが来たら、うちの旅館、客が減るぞと。

ところが、海外からくる人は、日本のように名所めぐりじゃないんですね。発想が。滞在型が多い。この間、ラジオかテレビで言っていたのが、最低一週間、長ければ10日から2週間の休みで来るので、「こう回る」より、「ここに行ってこれ」がいいらしい。

今、高速道もあり、レンタカーもあるので、そういう滞在型を考えていくと、いくつか課題がありまして、一つは安いところで、機動的に泊まって、帰りの2日ぐらいは、ディープな日本旅館に泊まりたいと。そういう選択肢も当然あるので、旅館と、新しいルームシェアみたいなのが可能なのかなと思いました。

もう一つが、そのとき言われたのは、日本の旅館の課題とネットに出ていましたけど、毎日同じメニューなのですね。朝食、夕食。これは海外の人にとっては全く面白くないというコメントが多いそうです。そうすると、二度と行かないと。

できれば、こんなこと、うちは旅館もろくにないのに言っただけ失礼ですけど。今度は、ゆうらくの所、開設しますけど、なるほどそうだなと、私も連泊したこと経験ないので思ったのですが、少しメニューを変えるとか、ABCをもって選択してもら

うとかいう形で2泊3泊可能なような体制にすると、そこにステイ、滞在、その人が間違いなくSNSで発信する、友達を呼ぶになって、拡大していくのでそういう工夫が大事かなと強く思いました。それと、簡単ではないのですが、本当に5つ星ホテルが日本には少ないらしくて、2020年を考えると、鳥栖市長さんが仰ったけど、セレブ層は泊まる場所がないという話になりがちならしい。

これは二階幹事長が嬉野に来られたときに、ちょっと、仰ってましたけど、「そういうのを計画的に作らんと日本は困るぞと。」ということも仰ってましたので、是非、県の観光、商工、活性化をやってくださる部門とか、今日お見えになっていた観光連盟とか、うまく連携してですね、是非やっていければいいかなと。

(岸本玄海町長)

県内、連携をしてこの宿泊については、今後も継続して協議をしていただいて、素敵な宿泊地域になるように、知事さんにもお願いをしておきたいと思えます。

一つだけ、最後に。玄海町はちょっとだけ、自分だけ先取りしようと、実は星野リゾートさんと折衝をやって、玄海町の全部を検査してもらったのですよ。最低1泊10万円で泊まれる旅館をどうにか考えてくれないかと言ったら、「ここでは商売になりません。」と。そんなことはないのにと思いましたけど、星野リゾートのディレクターは、「旅館業は商売なんです。儲からないことはやらない。ここでは儲けられない。」と。だから、さっき横尾市長さんがおっしゃったけど、単発でお客が来ても、それでは商売にならんなど。そこをどう接点を見つけていくかという問題は残る。

ただ、吉野ヶ里にしても、私どもにしても、宿泊施設というのは少ないわけで、何か、そこにカバーできるものは他の皆さんの知恵を借りながら、是非努力をしていきたいなと思っているので、県の方でも十分協議をしていただきますようお願いいたします。

次の議題に移ってもよろしいでしょうか。

高速道路を活用した“さがさいこう”プロジェクト

(岸本玄海町長)

次は、高速道路を活用したさがさいこうプロジェクトについて基山町さんから趣旨説明をお願いします。

(松田基山町長)

そもそも国交省とか、いわゆる協会の陳情とかに、要望事項に、福岡県はパーキン

グとかインターチェンジの高速の話がいっぱい載っているのですが、佐賀県はゼロなんです。まず、それが一つと。

ここにはどんな方がおられるのか、NEXCO関係者の方とかおられないですよ。NEXCOさん、基山町が1町だけで話そうとしても、相手にとって不足があるじゃなくて、相手にとって不足がなさ過ぎるというか、すごく難しいかなと実感がありまして、よかったら他の自治体さん、そして佐賀県さんと連携して高速道路について考えたらいいのではないかというのが今回の趣旨であります。

特に今年から来年にかけて、維新のイベントとかがあるのだったら、なおタイミング的にいいのかなということで簡単に2つだけの提案です。

一つはまず、今、既に佐賀のレンタカーのキャンペーンは凄くやられているという風に聞いておりますけれども、これが佐賀空港スタートという風に、あの、間違っていたらすみません、私が聞いているのは佐賀空港スタートという風に聞いているので、もっといろんなところからスタートできるようにすべきではないかというのが、まずレンタカーの話です。

高速道路のドライブパスというのが、九州のドライブパスや中国のドライブパスというのが定期的に期間を決めてやられていますが、もっと絞った、佐賀～福岡とか佐賀～筑後とか、そういうのに絞った形のドライブパスの話をNEXCOさんに要求したら、比較的それは通りやすいのではないかなと。そうすると、拡充したレンタカーのキャンペーンとミニドライブパスの話を引っ付けることができれば、佐賀とか筑後とかその周辺に、福岡空港と佐賀空港とその他を組み合わせたような形のことができるようになるかというのが提案の1でございます。

提案の2は、当初の案ではSAと書いてあったんですけども、基山パーキングはSAではなくPAなので、SAにだったら基山町が提案するのにSAの話をしたらおかしいだろうとPAを入れたのですが、佐賀には3つのSAとPAがありますので、そこに佐賀を紹介するようなデジタルサイネージ及びパンフレットのコーナーみたいなものを強化して、佐賀をPRしたらいいのではないかという、非常にシンプルな話でございます。

特に基山パーキングは、福岡方面、それから本州方面から佐賀に入っていく人達、まあ、佐賀に来なくて鹿児島の方へ行く人達もたくさんいるかもしれませんが、分岐点になりますので、基山パーキングの下りの方に佐賀の紹介をするようなデジタルサ

イメージ等を置いたらいいのではないかというふうに思ったりもしたところがございます。それから、金立は両方大丈夫、両方にPRを置いて、逆に、川登の方は、上りの方に置けば、長崎から来る人達を佐賀に呼び込むことができるのではないのかということでございます。こういった、あまりお金がかからなくて、佐賀をPRする、そしてNEXCOさんとうまく連携するようなことをやっていくのはいかがなものでしょうか。そうしてもらおうと基山町も助かります。そういう提案であります。

(岸本玄海町長)

これも、県の方から先にお答えをしていただいて意見交換会をさせていただきます。

(山口知事)

これ、この前担当課が来て、これを見てかどうか、博覧会に向けて、NEXCOと話を色々しているらしいです。

ただ、単県だけでやった事例はあまりなくて、連携軸みたいな感じでやっているの、うちだけでもやれるかどうかとか、そういったところで。

九州全体から、定期券みたいな感じで来られるのか。

(松田基山町長)

はい。ドライブパスはどんどんNEXCOがやっていますけど。

(山口知事)

出放題というの。

(松田基山町長)

だけど、値段がある程度高いので、むしろ、エリアを少し絞れば、少し安くできるような話になればまた違うかなと。たぶんこれ、そんなにNEXCOさんにとって負担はないので、比較的やりやすいんじゃないのかなと。

(山口知事)

もし、これセットが可能だったら、佐賀唐津とかさ、佐賀から福岡に抜ける263号、三瀬トンネルなんかもセットで作るとか。

(松田基山町長)

本当は、例えばパーキングにもっと物産とか、単にパンフレットとか紹介だけじゃなくて、物が動くようなことをしたいのですが、でもこれはなかなかNEXCOさんとの関係で難しい。基山町単独で、上りパーキングに基山町の店を出しているのですけれども、なかなかやっぱりいろんな意味で大変です。本当は佐賀県全体でそうい

う形のことのできたら、別に基山パーキングでなくてもいいので、そういうことが考
えることのできたらいいのかなとは思っています。

(山口知事)

基山パーキングはあれやもんね。大分行きの人と、熊本鹿児島とこっちと、結構多
いものね。

(松田基山町長)

はい。多いです。あと、高速バスの乗り換え地点になっておりますので。

(山口知事)

なるほどね。金立も結構。

(松田基山町長)

多いです。

(山口知事)

長崎の人がだいたいだけどね。

(松田基山町長)

是非。あまりお金がかかりませんので。

(山口知事)

一回言いたかったのですが、デザインのときに言った方がいいかもしれんね。ラ
イオンズとかが作ってくれたいろんな看板あるよね。「なんとかとなんとかの町」と
かという。言葉の内容は素晴らしいのだけど、けっこう朽ち果てたようなものが県内
にあって、あれを博覧会に向けて何とかしないといけないとっていて。直すなら直
す、降ろすなら降ろすとか。なんか啓発看板みたいなやつ。デザインの県の提案のと
きにまた。

(岸本玄海町長)

確かにSAでそういうものを整備するのは非常に面白い話ですね。

(山口知事)

あともう一点は、よく分からないのが、昔は確かにSAとかで看板を見ていたのだ
けど、最近では、これで大体見るでしょ。スマホとかで位置情報だとかなんだか。どの
程度、ユーズがどういう関係にたっているのかよく分かっている方おられませんか。

(松田基山町長)

看板じゃダメで、やはりデジタルサイネージじゃないと。今は、そのままスマホと

対応できるようなデジタルサイネージ、画面が大きいようなものを付けなければ意味がない。そうしたらコンテンツもいろいろ入れ替えることができる。一か所から集中管理できますので。

(山口知事)

動かないとね。

(松田基山町長)

ええ。

(岸本玄海町長)

これは我々の方から言ってできることではない部分もありますので、県がしっかりと。

(知事)

やります。だから、NEXCOと話をして。交渉事なので、いいセットができれば。基本的に嬉野とか武雄は賛成でしょ。だって、インターを持っているものね。

(谷口嬉野市長)

反対することはないですよ。

(知事)

ではこれは趣旨賛同ということで。

(谷口嬉野市長)

この前ですね。高速の担当と話して気づいたのですが、ちょうど朝倉の豪雨があったときに、うちと武雄の間が、高速が止まったんです。私が、何ですか、土砂崩れですかと聞いたら、雨量によって自動的に高速を止める、そういう内規があると。それで止まったらしい。そういうのが私達もあまり知っていなかったし、うちの空港業務課でもあまり知らなかった。そういうのをネットで、あるいは県の防災無線で連携しておけば、そこまで行って引き返すよりも、なにか分かる方法があるのではないかということです。そういうことを聞きましたので、勉強しないといけないなと思いついて。

(山口知事)

スマートインターはいつやった。

(江里口小城市長)

3月。

(山口知事)

博覧会にあわせて、まだ分からない。どういう状況か教えて。

(江里口小城市長)

いや、部分供用ができればということでNEXCOと協議をしています。

(横尾多久市長)

看板の話なのですけど、博覧会のシールかなんかでパッと貼って、全県下でばら撒けるようにしたらいかがですか。全ての公共のところにライン入れていいし、どこに行っても博覧会、博覧会と言っているねと。時々大きいのがあってもいいですけど、そうすると県全体でやっていることがやはり伝わっていくし。それに合わせて、新年度予算で看板をきれいにしようと各自治体でやってもいいし。

(山口知事)

なるほど、全体をね。

(横尾多久市長)

佳境の時に各地で「世界を見ていた佐賀」というものがメッセージとして伝わっていくと思う。この近辺だけでなく。

(山口知事)

「佐賀は世界を見ていた」ね。

(横尾多久市長)

ゼロからシール作ればコストばかりかかるので、そっちで作っていただいて。一年間ぐらいなら大丈夫でしょ。耐久性。

(岸本玄海町長)

今日の協議会なんかでは、首長さんもみんな例のポロシャツを着てこいと。知事さんから言えば。

(山口知事)

そうか。

(岸本玄海町長)

私も買いましたよ。小さくて、ないので、でっかいやつを。他何か首長さん方でないですか。いいですか。

(山口知事)

西九州道はなかった。

(峰唐津市長)

32年の合併特例債の期限前に、実は西九州の中にサービスエリアをつくるようにしています。唐津インターのすぐ近くに。鏡山のところです。一応上りと下り両方。まずは上りの方から。

(山口知事)

上りしかしないの。

(岸本玄海町長)

対面の形なので、両方するのはちょっと厳しい。

(峰唐津市長)

トイレがないのですよ。西九州は途中で。ですから、どうしても作らなければいけないので。

(山口知事)

向こうになかったっけ。分かった。

(副島副知事)

無料で降りたり登ったりできますので。

(山口知事)

そういう意味では、同じ理由か、有明沿岸道路にないのも。

(峰唐津市長)

そうです。無料で登ったり降りたりする。

(岸本玄海町長)

基本的には道路整備をもうちょっと考えてもらわないといけないかなというのはある。

(知事)

それをやったら3時間かかる。

(岸本玄海町長)

あまり言わないようにしたい。

いいですか。どうぞ、県のテーマに入ってください。

3 県提案テーマ

自発の地域づくりについてー地域おこし協力隊制度の活用ー

(山口知事)

要は地域おこし協力隊についてなのですけれども、要はですね、地域おこし協力隊って、簡単に言うと、最近評判なので結構人も増えているやつなんだけど、地域に住んで地域に3年間住んでもらって、その間交付税措置があって、その後定住化に結び付けようという。町によって地域別に仕事してもらったりとか、多い町だと30人くらい、1つの町で呼んだりするところもある。佐賀県の場合はだいたい各市町に1人ずつくらい、せいぜい2人くらいなので、実は47県で見ると大阪、神奈川、埼玉、東京に次いで5番目に少ないということで、むしろ北海道とか長野は300人、島根は219人で、うちが14人というくらい人数が少ないので。市町の選択だから別に僕らにとにかく言うことじゃないのですが、しっかり首長さん方にこの仕組みというのを分かった上でうまく利用していただきたいなという趣旨で今日説明しますので。

(坂本地域交流部長)

すみません、ちょっとお手元の資料の順番を少し変えていますので。内容は変わってないのでスクリーンでお願いいたします。

自発の地域づくりというのは非常に大きい視点ですけど、今回は地域おこし協力隊ということで特化して、そういう制度を活用していただきたいということで考えております。これが自発の色々な取組をされているということでございます。こういうのにも色々関わっていただいているということでございます。

問題意識としましては、先程言いました地域づくりは色々ありますけれども、やっぱり核となる担い手が少ないという現状がございます。やっぱり自分たちのところは魅力が実感できないとかいうこともあって、外からとか若い方の視点がそういうことに重要だということだと思います。色々な取組にあたっては、プログラムがあると思いますけれども、今やっぱり一番有効に動いているのは地域おこし協力隊ではないかと思えます。地域おこし協力隊は、地域おこし協力隊そのものが元々定住を目指していますので、移住に直結しているような話でございますので、これを使っていくというのが非常に重要だろうと思っています。

ただ先程知事が申し上げましたように、県内の状況というのは極めて少ない状況でございます。

地域おこし協力隊は、実は特別交付税制度でございますが、非常に実は制約が少ない、元々本来は地域がやるべきという視点があるわけですが、補助金ではなくて特交ですので、非常に制約が少なく、裁量幅が多い制度でございます。使いやすい制度でございます。

隊員は住民票を移動するという前提がありますので、これが定住に非常につながるということだと思います。ここで定住をつなげるためにはやっぱりその地域おこし協力隊の方々へのサポートというのは重要になってくる。あるいは、だいたい3年の計画ですので、3年、4年後までにこういう仕事に就くかということもありますので、地域おこし協力隊をしながら別の仕事もするということが前提になっています。

財政支援制度としては、活動に対する経費として年間400万の上限での特交措置があります。さらにその方が終了後、最終年度とか任期満了の翌年に起業するための支援についても措置がございます。さらに募集に対する市町が募集される際の経費についても支援があるという大きな有効活用ができる制度でございます。

先程知事が申しあげましたように、これが全体数でございますが、佐賀県の周辺には何があるかという、大阪、神奈川、埼玉、東京、上に愛知というように通常の我々が比較するような団体は、ほとんどここら辺（上位）にございまして、極めて少ないということになります。地域おこし協力隊は21年度にスタートしましたが、隊員数が89名からスタートしまして、現在4,158名でございます。5,000名を目指していると。団体数も最初は31団体からですけど、今は863団体まで増えているという状況でございます。これは、隊員数は50倍程度、団体数は30倍程度増えておりますが、佐賀県は現時点において14名の9団体に留まっているというような状況でございます。先程言いました周辺というか埼玉、東京、神奈川と比べるわけにはいきませんので、ちょっと財政力指数類似団体で比べてみますと、それでも1市町辺りの数が0.7と長野にいたっては15.2、大分は7.7となっているので、やっぱり桁がずれて数が少ないという状況でございます。トップを見てみますと、大分の竹田市は44名の採用をされております。こういう風に大きな団体が多数ございます。ただ、これほどやるかどうかということはございますけれども、先程言いました受入自治体の内の6割が実をいうと3名以上の団体でございます。ただ佐賀県におきましては、3名の団体は1団体、2名の団体が4団体、1名の団体が8団体という状況でございます。

地域おこし協力隊の効果は当然皆さん御存知なので確認の意味でございますが、こ

これは地域おこし協力隊の隊員の話ですけど、隊員として自分たちがやりたいことをやる、そういったことをしたい、生きがいを求めたい。それで地方公共団体といたしましては、行政ができなかったことにアプローチできるとか、色んな活性化につながる。自治体の内の地域については、やっぱり斬新な視点がでてくる。色んな行動力、地域に担い手がいないという行動力を支えてくれるということで、よく三方良しの制度になっている。これがうまくいって定住につながるという風になっていると思います。

定住につながるということでございますが、先程6割と言いましたけれど、これがデータでございますが、同一市町、あるいは近隣まで含めると、約59パーセントが現実に定住していると。100人の60人は移住につながっているということだと思えます。これは非常に大きなデータだと思えます。

地域おこしをやっていただいた上で、移住につながる。元々は地域おこし協力隊が移住につなげるという前提もございますので、この制度を所管している国に言わせると、もっと高めていきたいと思っている、ということは移住施策の中でも、非常に大きな取組だという風に思います。

ここで内閣府のデータをちょっと見ますと、国民の農山漁村地域に対する意識というのがございまして、2005年に男性で農山漁村、都市部から農山漁村部に定住の意向があるかどうかでございますが、2005年に20代の男性の34パーセントから2014年の47パーセントと13パーセントくらい増えておりますし、30代の男性は17パーセントから倍の34パーセント、40代は18パーセントから倍の39パーセントという風に大幅に都市部から移動を希望しているというデータがございます。そういう意味で、こういう若い世代が新しい結婚だとか家庭をもつという段階で移住するという人もございますので、地域おこし協力隊の方々、そういう意味もあって非常にそういう動きが盛んになっております。もう1つのデータでございますが、これは平成25年のデータですが、右側は、定住した方々が、何をされているか、もちろん移住をされるのですけれど、その中で25年は16パーセント、9パーセントくらいしか起業をされなかったのが、28年、27年ですか、17パーセントと倍増しております。

これはやはり外から起業されて新しい仕事をその地域に作り、新しい刺激を与えてくれるという意味でも、地域おこし協力隊の非常に大きな取組ではないかという風に思います。

後はデータではございませんけれども、地域おこし協力隊にとってやっぱり重要な

ことだなと思うのはミッションをきちっと与えること、与えるというか考えて話をするというごさいます。よくあるのが地域おこし協力隊をやめて帰られる方を他の県なんかで聞くと、市町の行政の補助職員みたいな形で取り組まれるとやっぱりやる気がなくなったという話も聞きます。だからその人にどういうミッションをきちっと与えるのかということが必要だと思ひます。

ただ今ですね、地域おこし協力隊の募集相当増えています。竹田市がナンバーワンですけど、応募者を取り合いになるのですけど、ミッションをしっかりとやるというのはこちら側の話ですけど、竹田市は実は企画提案で、本人たちが何をやりたひのかいふことを提案で受けて、自治体がそれはうちの自治体として取り組みたいんだといふことを向こうから提案を受けるといふ部門での雇用といふこともやられているといふことごさいます。

佐賀市さん、有田町さん、例へば佐賀市さんは林業とか、有田町さんは移住定住とか空き家の活用とかでやられていることは私が話すことはないのて、割愛いたします。

最終的に最後ごさいますけれど、うちの県ではない、もちろんうちの県の話ではなくて他県の話ですけど、やっぱり移住されて住み着かれるといふことになります。この方々も読んでいくと、その3年間の間に次のステップのことを考えられているので、やっぱりその3年間で期限なのてですけど、その間に自治体がどういふ風に次の定住に向けてサポートをしていくか、先程言ひました副業まで認められておりますので、そういうこともしていくといふことも定着のためには必要ではないかといふ風に思ひます。

ちょっと駆け足ごさいましたけれど、以上ごさいます。

(山口知事)

これをテーマに取り上げたのは、私も同じような仕事を過疎のときやっていたのですけれども、佐賀県がよく分からないのは、あのニーズが少なすぎるわけす。それぞれの採用している数が。

結構今人気が上がったこともあつて募集をかけて良い人をとるつていふのが大変な労力なのにも関わらず1人しかとらない。1人とつたつて5人つてもやっぱりそこに管理する職員をおかないといけないし、しっかりと勉強して、これやらなければいけないのにたった1人だけを雇つても非常に非効率ではないのかと。

やるのだったらしっかりとミッションと地域の目から数人しっかりと首長がたま

に会ってやるくらい面倒見てやって、やるような形で、しっかり3年後のことも含めて、地域に馴染むような形でやっていくということをやっていくと。

ただこれは田舎から田舎は駄目なものね。都市部から住民票移さないといけないので、基本的には都市圏で募集活動することになるので、そういったことも含めて、多分1人の募集、確か田島さんやったかな、大変だよ、1人雇うだけでもね。たった1人。逆に言えばあそこの、さっきの大分の竹田は40人もとっているわけです。それくらい人気を呼んでいる。

その辺りをどうしていくのかというのを1回、ここで議論しておきたかったということ。あともう1点は、私は2回くらいこの14人の連中と飲んだけど、県で集めてどうやって話を聞いたときに、やっぱりその首長さんが構ってくれたりね、たまに「お前ようしとっか」と言うことと、単に非常勤職員だから放置されているような人も居たりとか、実際さっき言ったとおり兼業もできるわけですよ。

3年後、今度は自分でその町でなれ合いを持たないといけない。ところが、「あんたは非常勤職員やから兼業はだめよ」と人事から言われたとか、本当のミッションというのをちゃんと首長さんが分かってやってあげるかによって、全国でうまくいってる事例と、やっぱここに来て失敗したと言って途中でやめる方というのものもある。

是非そういったところを首長さんに今日認識をもってもらうだけでも違うかなということでした。

(松田基山町長)

あの3年前に、2年ちょっと前に2人採用して今3年目を迎えている。1人の子は福岡辺りで彼女を見つけてその彼女と一緒に住んでいますので、そういう意味じゃ子どもまで出来てもらえるのなら人口が何人増えるのか楽しみでたまらないんですけど、それはいいのですが、今回募集したんですけどやっぱり集まらないですね。それはやっぱり非常に基山町の知名度が低い、竹田とうちと比べると、やっぱり荒城の月の威力はすごいので。それからあと福岡の浮羽なんかがすごい今、いっぱい募集してますけど、やっぱり今、浮羽もイメージいいですよ。お願いなのですが、今回キッズサポーターで良い人いただいたんですけど、募集のときにうまく県と一緒に募集するようなそういうことができないかなと。

(山口知事)

入口をね。まとめてね。

(松田基山町長)

入口をうまく。そしたら結構良い人がきて、そしてなんというか、あの各自治体で競争でなんかドラフトするじゃないけど、うちに来てくださってというお願いするくらいの感じでやってもいいのかなという風には思います。それと細かい話ですけど、普通3月議会にあげるような案件かと思っていたけど、これが失敗でこれは12月議会であげないと3月の良い時期に募集ができないというすごく細かい話もありますので、今からやられるところは是非、そこも考えてもらったらいいかなと思います。

それと地域おこし協力隊もですが、うちは今集落支援員に結構力を入れていて、もう4、5人雇っているんで、逆に他の自治体さんで集落支援員をうまく活用されている例とかうまくいっている例があったら、また後の席にでも教えてほしいなというのがあります。あの地域おこし協力隊とまた違った意味で、集落支援員も非常に大事だという風に思っています。以上です。

(多良吉野ヶ里町長)

地域おこし協力隊、今度の7月1日から採用しました。それで国内旅行の管理資格をもった人を、温浴施設の近くに里山体験ができる施設を今度作ろうということで川、河川の中でも遊べるように地域おこしにも協力していただいて、大きい川の中に小川を作ってもらっている。大雨のときにはみんな流れるのですが、普通ときには小さい子どもが川遊びできるくらいの環境をちょっと今整えています。里山体験、農業体験とかいろんな体験ができるような環境ということで、旅行企画をして旅行会社に商品として売り込むことができるような人ということと、タケノコとかそういったものを特産品に今後していこうということでタケノコをゆがく場所を今作っているんですけど、そういうものを福岡県とかに対して、発信できるようなそういった人を公募やったんですけど、応募がなくて。それにたまたま問合せがあって、その関心も1つの他のところと比べて中の1つだったんですけど、そういう応募があったということで書類がきて、履歴書が来て、私が見て、そしたら国内旅行の資格持ってるとかあったんで、もう1本釣りでその人に携帯に電話しまして、是非あなたが欲しいんだと話したら、それがずっと気になって、他のところに地域おこし協力隊じゃなくて会社に入ってあったんですけど、町長からの電話がずっと気になって地域おこし協力隊として活躍したいということで、うちの前が佐世保市の地域おこし協力隊で活躍していた人を今雇っています。

(山口知事)

地域おこし協力隊兼任OKだもんね。

(多良吉野ヶ里町長)

そういう人だったので良い人に巡りあえたかなという思いがしています。

(松田基山町長)

どこか兼業を禁止しているところがあるんですか。

(山口知事)

いや俺は協力隊から聞いて、兼業を禁止されたって言われたから。だから、「えっ」
と言って。だから1人、多分1人だからかなと思ったのです。だからある程度しっかり
やっていけば首長さんが管理するけど、1人だと、こう何となく担当任せになった
りとかして、やっぱりうまくやってる県というのはそれぞれチューターみたいなのが
しっかりいて、よく見てあげてるといふか、最初心細かだから、しかもそれを県がた
まに勉強会をしたりして、しっかりなんといふかな、大切に扱っているといふか。最
初の1年間は不安なんで。募集が大変なら県がまとめてといふのも。奈良県は最後ま
で県が抱えているんですよ。で、県から派遣させているのでそれはあんまよくなくて、
私の考えとしては。やっぱりさっきの多良町長じゃないけど市町との縁で仲良くやっ
てもらいたい。県が雇うのではなくて、だから窓口は県がやってるんだよな。その中
で必ずどこの町って言って、やっぱ入ってそこの町を好きになってもらおう。

(岩島太良町長)

ミッションのときに、そこの町が一生懸命プレゼンしないとその人に気持ちが伝わ
らないですね。

(多良吉野ヶ里町長)

窓口を県がしていただいて、逆にそのミッションをある程度我々が考えて、県の方
にお願いをしていくという、企業の説明会は窓口があつてそこに企業が来てからやる
じゃないですか。そういうスタンスで、我々がミッションを持ってやっていけばいい
かなと思いますけどね。

(横尾多久市長)

お世話になったりしているんですけど、実はスタートする前に県内に来られている
地域おこし協力隊の方々にお会いしました。実は会いに来るにも、地域を越えている
ので制限がかかっているんですという話を聞いてびっくりして。兼業もだめだとか。

色んな制約があって、多分本省で考えたルールだと思うのですね、その自治体の中にいなさいとか。だからちょっとその辺をね、緩やかにしてもらったらいいなと思うのですよね。

(山口知事)

制限かけているのは市町だもの。

(横尾多久市長)

ああ、そうですか。それはわかりませんが。そこら辺は佐賀県の場合は広域移動が多いし、交通の便で・・・

(山口知事)

出張旅費を出してくれない市町が多いって。要はたまに研修とあるじゃないですか、お互い。でもそんな旅費は出せないとかね。結構。だから逆に聞くけど自由にさせた方がいいの。

(横尾多久市長)

もう1つは知事がおっしゃった様に、他のところに行っている地域おこし協力隊にいったら、ときどき会って情報交換、励まし合って勉強する、ALTと一緒にですよ。ずっと行ったらしんどいけど、仲間に会えば元気になる。それは良いと思いますけど。

(多良吉野ヶ里町長)

400万の枠があるんで、人件費に200万、今のところ18万で公募してるんですよ。中身が良ければ町から上乘せしてやっていこうかなと思っています。だから1年ちょっと頑張ってみてねと。あなたの努力次第では町単独で上乘せしていくからという話と、あと200万が、協力隊が自由に動ける車、1台リースとかそれとか、そういったものにあとの200万を充当するようにしています。

(松田基山町長)

集落支援員が、兼業が駄目なんです。だからそこで誤解している人もいます。同じようなものなので。

あとは非常勤職員と同じ扱いで整理している自治体が多いので、それは兼業だめなんです。そんな感じだと思います。集落支援員の農業は認めているみたいです。

(山口知事)

特に町とかは是非もし一緒にやろうと言うんだったら太良なんて今1人ですかね、7～8人・・・

(多良吉野ヶ里町長)

公募してもなかなかこっちのメガネに合うっていうか・・・

(山口知事)

そうね、マッチングが逆にこんな増えすぎてしまったらちょっとどうかなっていうのもあって。逆に言えば協力隊から協力隊はOKだから他のところで活躍している人というのはチャンスではあるんだけど、なかなか難しいな、これ。

(松本神埼市長)

神埼は募集したいと思っているんですね。県の方でまとめて、やっていただきたい。

(山口知事)

そうそう、歴史とかさ。そういうやつとか。

(松本神埼市長)

今まで受けてないので。

(多良吉野ヶ里町長)

なかなか公募しても・・・

(田島白石町長)

私のところも既に2年になる女の方が1人いて、3年目に1人入っています。そういうことで私のところでも道の駅とか新しい農産物を開発していこうというもので今年も応募をかけたのですが、7名の方が相談に来られました。しかしノミネート、エントリーされた方は4、最終的には0。やっぱり何でこう減ってくるか、やっぱり白石町に魅力がないのか、もう1つはやっぱり最近は多いから、これが少ないから駄目とかですね、色んなことがあるんじゃないかなということをおもっています。

しかし、私たちは3年後のことも考えてやらなきゃいかんということをおもいますね。多分、私の考えではですよ、佐賀ってというのは人が良い人ばかりだから将来のことまで考えてあるからあんまり無茶にね、無理なことはされないということおもいます。少ないんじゃないかなと私は自分勝手に思っているんですけども。

3年後はほったらかしたらいいってなればですよ、たくさんとりあえず3年間だと採るかもわからないですけど、やっぱりそういう気持ち、佐賀県人というのはそういうあれがないじゃないですか。やっぱり見てやらんといかんという気持ちがあるからですね。

(松田基山町長)

基山町がやってなかった理由も議会でそういう風に答弁しています。

(山口知事)

確かに上の方の県の人たちはつらい思いをしてる。3年後に泣いてお別れがきてしまうので。まあ、そうか。そういうまとめかい。佐賀は優しいから無理はしないと。

それは分かるけど。でも向こうがやっぱり本当に佐賀を好きになってくれれば何とか見つけてね、自分でね、色々ね。そのための手助けをしてって、そこも必要といえれば必要だけどね。

(水川大町町長)

佐賀でね、3年後に食っていけるかっていうことまで考えればですね、魅力とかです、どうかなって思いますけどね。現実的には。

(山口有田町長)

あの、だいたいこれに応募してくる方は、例えば一流企業に就職してて協力隊に転身をするとか、そういう方、やる気がある方が多いんです。今、有田町は3名なんですけど、あのそういう方々やはりあとを考えないといけない。折角一流の企業に就職している若者がやめて、そして協力隊に来る。確かに気持ち分かりますよね。やっぱり3年後のことをこっちも考える。やはりそういう環境の下で協力隊が応募してきますから、そういう意味では非常に。けどもう3名とにかく優秀な若者なので自分たちで思ったようにやっています。

(山口知事)

優秀だよ。それからこの前有田に行ったときも色んな、佐大生だとか皆が集まってさ、彼のもとにさ、ああいいなって思ったりしてさ。

今0のところも結構あるわけ。担当とか集まって、首長の認識はある程度共有したとして、担当課長の会議で。佐賀県として窓口としてやるならやるとして1回やるか。

(松田基山町長)

佐賀地域キッズサポーターありがとうございます。もう本当に送り込んでいただいた女性がまさに溶け込んで、3年目の2人とタッグを組んで、すごく良い活動をしていただいていますので。

(山口知事)

だから、ある部分それに似た仕組みかもしれんね。ある程度県で制度をしっかりとやって、でも実態は市町でしっかりとやるという。みやきはやってる。

(末安みやき町長)

ちょっと勉強、よそですね、総務省に登録してないと駄目だとか情報もありまして、市町独自で募集できないし、あと交付税措置は特交か何かで、上限とかもない。すみません。勉強不足で。

(山口知事)

やった甲斐がある。事後報告。件数調べて報告して。特交は。武雄も昔から使っているよね。

(小松武雄市長)

今は下火ですね。教育関係で。

(末安みやき町長)

必ずしも町村に勤務しなくていいんですよ。

(山口知事)

しなくていい。野菜を売り歩いているような協力隊もいるし。逆にかゆいところに手が届くような、地域のためになるのであれば。気持ちさえ入れば、大概のミッションはできる。

(末安みやき町長)

御用聞き会社とか。

(山口知事)

使えばいい。

(岩島太良町長)

部課長会議か何か開いてさ、認識不足なので。

(山口知事)

今日で首長はこれで認識をもったので、あがってきたらちゃんと聞いてあげて。じゃあこれで今日の所期の目標は達成したね。問題は終了ということで。上峰は大丈夫だね。連絡してね。

(上峰副町長)

わかりました。伝えておきます。すみません、今日は。急に腹痛で。失礼いたしました。

4 ～15分間休憩～

5 県提案テーマ

(源五郎丸市町支援課長)

もう一つの県提案テーマ、次第の5ですが、SAGA DESIGNについて、意見交換を行いたいと思います。今後の進行も山口知事をお願いいたします。

(山口知事)

えっと、後半戦ですが、ちょっとその前にさっきの地域おこし協力隊の関係で部長がどうしても整理をさせろと言うので。

自発の地域づくりについてー地域おこし協力隊制度の活用ー（補足）

(坂本 地域交流部長)

先程はありがとうございました。地域おこし協力隊のことにつきましては、事務レベルでの協議をさせていただきます。地域づくりのことですが、実は全国の過疎問題シンポジウム2017in佐賀を10月19日、20日に佐賀県で開催することになっております。全大会は佐賀市文化会館、交流会、分科会で唐津、多久、白石、太良の方で開催させていただきます。全国から色々な事例を紹介されます。地域づくりの非常に素晴らしい大会になると思いますので、是非、市長さん、町長さん、そして事務の皆様にも御出席いただいて参考にさせていただければと思いますので、是非よろしくをお願いします。

もう1つですけれどもちっちゃい紙がございます。Re:サガミーティングというものでもう3年やっておりますけど、福岡、名古屋、東京、大阪、今年は佐賀でも開催いたします。佐賀は別ですけれども、県外に出て行った若い人たち、あるいは佐賀に興味がある人たちに知事が直接出向いて、佐賀県のいいところ、あるいは、そして若い人たちと意見交換をするという場がございます。7月22日は福岡でやることとなりますけど、200名ですけれども、これは既に満員になりまして、締め切っております。名古屋、東京、大阪で開催をいたします。地域の方々に情報を市町にもお願いをしておりますので、情報を伝えていただく、あるいは、市役所や役場の職員さんの御家族の方知り合いの方、市民の方、町民の方々に、知り合いがいらっしゃれば、こういう会があつてつながることができると思いますので是非参加についての御協力を

お願いいたします。

(山口知事)

はい、ありがとうございました。ということで県内の昨年度の県内の高校生の県内就職率は56.5やったかな。4パーセント上がりました。こういう形でできるだけ有効求人倍率が高い状況なので県内就職率を高めていきたいと思います。

SAGA DESIGN～デザインの視点で磨き上げる～

(山口知事)

そのためにも高校生たちに佐賀県をもっともっと好きになってもらわないいけないので、そういったことも兼ねて今日2つめのテーマは、山口県政になってさがデザインという切り口で、色んな県の施策にクリエイターやデザイナーのチェックポイントを入れながらやるという施策をやっています。だいたい何か仕事をやるときに、入札して、安かろう悪かろうみたいなことってあるわけだけども、県の場合はそういったところに必ずクリエイターをいれて、どんなコンセプトでやっていくのかということをしっかり煎じ詰めてやっていくということ。それから、たまたま今日はこういったところに写真も出ていますけれども、同じ風景にしてもしっかりとこう、その素晴らしいところを見せることによって、素晴らしいものが見えてくるので、今日はうちの県がどういう視点でやってるのかということの紹介をして、最近ちょっと嬉野あたりは大分デザインに力を入れてやっていただけてますけど、そういう形で少しずつそういうのが増えてくるとですね、佐賀県全体のブランドイメージっていうのも上がっていきんだらうという風に思いますので、今日はそういった紹介をしたいと思います。ということで、担当に今、宮原という、こんな恰好していますけど、担当参事なので、彼に紹介させたいと思います。

(さがデザイン 宮原参事)

さがデザインということで、こちらに何枚か写真がありますが。

(山口知事)

いいっしょ。これもほとんど光を浴びてなかったけど今までは。ところが、こうやって写真を見せるだけで、ちょっとした雑誌に載るだけで、全く違う風景でね。

(さがデザイン 宮原参事)

はい。こちらもこの写真と一緒になんですけど、ここ、あのウユニ湖みたいに見える

すが、どこかお分かりですか。

ー白石との発声ありー

(さがデザイン 宮原参事)

です。はい。白石町のレンコン畑で、まあこういうのを見たら、外国人の観光客の方とかもすぐ行ってみたいと思うようになります。こちらは、有田の壁なんですけれども、写真家に県の絵葉書を作ってもらったときに、有田や色んな市町を撮っていただいたんですが、有田をどうやって表見するっていうときに、彼はこういう切り取り方をして、これも外国の方とか、特にインバウンドの方が見るとすごい面白いということで、ここ行ってみたいというようなスポットになっております。

さがデザインってちょっと分かりにくいんですけども、蘭心竹生という言葉がございまして、蘭のように艶やかな心で、竹のようにまっすぐ生きるっていう言葉です。さがデザインは、蘭心、蘭のように艶やかな心で、物事を少し良くしていきましようという風なところを担っております。竹生の竹のようにまっすぐ生きるっていうのは、佐賀県人のもともと得意とするところがございますので、ここに蘭心を少し付け加えようっていうのがさがデザインの取組でございます。

今日は3つ、総合計画でどういう風に位置付けられているかっていうことと、どんな感じでさがデザインがやっているかっていうことと、あと事例を簡単に紹介させていただきます。

総合計画 2015 では、真ん中に、人を大切に、世界に誇れる佐賀づくりということ掲げております。県の全ての施策を6つにカテゴライズしているのですが、その6つをさが創生とさがデザインの2つの視点で全てを見ていきましようということにしております。さが創生の方は、今日もテーマになっておりました自発の地域づくりですとか、地域が持続的に存続していけるような色んな子育てですとか、雇用の整備をやっていくということです。さがデザインの方は、ちょっと視点が変わりました、モノやコトに関して、デザインの視点で磨きあげていきましようということになっております。モノやコトと私言いましたけれども、モノだけじゃありません、と。コトのコンセプトのところも、デザイナーとかクリエイターの視点で少し良くしていきましようということでございます。

モノのデザインは分かりやすいんですけども、これ、県庁の本館の1階の元待合室だったところを、県産材の利用促進のPRのための施策を考えているときに、今ま

でだと無骨にPRしていくところなんですけれども、やはり県民の方々に県産材使うとこんないい空間になりますよというのを一番分かるモノのデザインということで、皆さんの待合室に使ってもらっています。先ほどから写真出ておりますけれども、絵葉書なんかも、普通に絵葉書作ってどっかに発注すると、観光地によくありがちな絵葉書が出来るのですが、これもデザイナーと写真家で色々コンセプトを話し合っ、違う切り口で作らしようということで、後でお返ししますけれども、素敵な感じの絵葉書になっております。

それだけではございませんで、コトのデザインということで、社会のシステムやサービスを元々コンセプトから磨きあげて、子育てしたい県、子育てしたいようにするためにはどういう風にしたらいいんだろうというシステムのところも考えていくってところをさがデザインでは標榜しています。例えば、観光で使っている多言語のアプリに関しましても、外国人の方が日本で、とりわけ佐賀で障壁なく色んな観光ができるようにということで、こういうものを作るっていうこともコトのデザインの一つだと思っております。

メインキーワードは心地よさということで、デザインも色々あると思うんですけど、佐賀の一番、真っ正直でいいところっていうのは、心地よさにあるということで、やっております。さがデザイン、さがをかえるしくみを考えるということで、モノだけじゃなく、コトも磨きあげていこうと思っております。

通常でございますと、行政の中でさがデザイン、どういう役割果たしているかといいますと、クリエイターとある課の事業が繋がったとしても、それはその部分だけで繋がって、クリエイターとかデザイナーがすごい良い仕事をしていても、他の課とか組織全体での共有ができません。それで、さがデザインが先ほどありましたように、色んな施策に横から、色んな課の施策に横にいて関わることによりまして、デザイナーとかクリエイターの人材紹介所みたいな、相談所みたいな機能を果たしております。今、さがデザインは4名のチームなんですけど、その4名は普通の行政職員なので、佐賀出身の、とか、佐賀に縁のあるクリエイターやデザイナーの方々と、100名ぐらいと、東京で活躍されている方、佐賀にいらっしゃる方色々あるんですけど、お友達になりまして、この友達 to 友達の関係で、佐賀に対して色んな意見を言ってもらったり、事業を手伝ってもらったりということをしております。

この中では、各市町の方にも入られているデザイナーとかクリエイターも結構いら

っしゃると思いますが。ということで、こういう人たちが事業を考えるそもそもの予算の立案のどこから、アドバイスいただいたりすることによりまして、高品質な政策を担保できると。事業で予算作ってしまってから、色んなところに発注する前の段階で、そもそも設計として狙うターゲットはここじゃないですかみたいなことを一緒に行政にアドバイスもらいながら作り上げていくということをしております。

この100人のネットワークから色んなことが生まれてきていまして、つい先週の金曜日に勝手にプレゼンフェスっていうのを行いまして、これは東京在住のクリエイターが佐賀のために何か提言しようということで、去年からやっている2回目になるのですが、自費で勝手に佐賀までやってきて、知事はじめ県庁職員に勝手に提言するっていう催しをしました。去年は11人、今年も10名くらいのクリエイターがやってきていただいて、勝手に色んな提言をしていただいて、県の方も勝手に受け止めたり、受け止めなかったりということをやっております。

こんな感じで、場所も今回は佐賀市の呉服元町にあるビルをリノベーション、このデザイナーの1人がリノベーションしているビルの建設中の1箇所で、100名ほど集まって、こういうイベントをやりました。去年の中から、実際にちょっと形を変えながら、事業が実現しているのが、3つ、4つございまして、それもたぶん今までの行政では非常に珍しい取組じゃないかと思っております。

今日、後で皆さんに御見学いただきたくことになっております県庁CLASSというの、さがデザインが関わってやったものです。もともと旧館の方に旧知事室・来賓室がありまして、これを全国の何県かでやっているのですけれども、旧知事室とかを再現して、皆さんに色んなものを展示して、公開しましょうというのがあります。お題としては、旧知事室・来賓室、せっかく調度品もあるし、歴史もあるので、県民の皆さんに開かれたものにしましょうというお題がありました。そのときによくある形ですと、美術館みたいなものを、展示をして、誰に向けて展示をしているのかちょっとよく分からないものになってしまいがちなので、今回デザイナーから、コンセプトから話し合いまして、子供たちが、小学4年生、5年生が年間に40校、50校県庁に社会科見学に訪れていて、今まではその子たちに決まったところで、県について、こうですよっていうのがなかなか場所もなく、社会科見学に十分に答えきれてなかったということもございましたので、この県庁CLASSということで、子供たちに佐賀県のお仕事、佐賀県の歴史みたいなものを教えるとともに、学んでもらう場、触

れてもらう場ということにしました。

象徴的な諸富家具でデザインをして作ってもらいました講義ベンチを使いまして、子供たちにすごく分かりやすく、佐賀の歴史ですとか、これまでの出来事を触れてもらうようになっております。知事室では、知事の椅子に座ることができて、そこで写真を撮って、記念写真を撮って帰ってもらうという、忘れられない時間をここで過ごしてもらうという試みでございます。

こちらは県の話じゃなくて、先ほど知事の話にもありましたが、市町でもやはりデザイナーさんが入ることによって、素敵なことになっているという例でございます、嬉野の肥前吉田焼というのがございます。これ、去年から今年にかけて、こんなものが出来上がっているんですが、デザインコンペティションというのを、先ほどの佐賀出身の建築家デザイナーたちが関わって、吉田焼デザインで何とかしましうみたいな取組をされています。はい、お願いします。各界の第一線で活躍する審査員も呼びまして、この人たちが審査員するから、クリエイターたちもじゃあぜひ出そうみたいなことになりまして、全国からデザイナーからこんなデザインでどうですかみたいなのが、167 作品、102 名集まりました。それで、賞がとれたものは全部商品化ということで、詳細を検討して、本当にプロダクトを作っているって、全部は紹介しきれませんが、こういったものですか、こういう素敵な感じのものが出来あがっております。これが先日、市長もいらっしゃったのですが、東京の伊勢丹本店で肥前吉田焼が1 コーナー占めまして、東京の皆さんに買っていただくみたいな取組に広がっております。

それだけではございませんで、例としましては、デザイナーからの提案はグランドデザイン、市とか町とかエリアをどうデザインするかっていうのも色んな提案がきておりまして、このとおりに採用するかは別として、例えば、佐賀県庁と総合運動場の辺りは、デザイナーから見てですけれども、こっちは文化エリアで、こっちはスポーツエリアですよ、と。そこをもうちょっと際立たせて、ゾーニングをやっていくともっと素敵になるんじゃないですかという提案もきておりまして、例えば、佐賀城公園を色んな形でブランディングしましょうと。図書館の南側の公園も人々が憩うようなものにやってみましょうという提案がなされたりしております。これ、博物館、美術館の北側の回遊する庭園だったのですけれども、ここも色んな晴れのイベント、去年からさがさいこうフェスとか行っておりますけれども、そういうのが楽しめる場

所に少しずつ変えていきませんかというのが提案で、これがこのとおりじゃないのですが、こういう形で県の中でも事業化して、今進んでいるということになっております。

今日また後で御覧いただく表現する県庁ということで、新館の1階もだいたい、県民のみなさまが来たときにくつろいでもらったり、県内の産業の素晴らしいものづくりのものを展示したり、あるいは屋上もプロジェクションマッピング等をやりました、観光客の方とか県民がここで憩える場所ということになっております。というような、様々な取組をしながら、県の施策の色んなところに心地よいものをいれていくというような仕事でございます。以上です。

(山口知事)

二つだけ補足させてもらいますと、一つは、蘭心竹生という言葉を出しましたけれども、佐賀の本当の良さを磨いているイメージですね。だから、嘘っぱちは絶対ダメです。嘘のことをデザインしたら、みんな見透かされて、佐賀の本当の良さは出てこない。ただ、ずっと、今までなんとなく埋もれていたものだったり、実はこっちの角度から見た方がいいようなものをしっかり磨きあげて、佐賀の本当の本来価値をしっかりと見てもらう。まがい物ではなくて。というのがさがデザインだということと、もう一つは、ついついデザインというところパッケージの何とかとかそういう何か表面的な話に勘違いする皆さんもいらっしゃるのだけれども、まあそういうことだけではなく、さっきのグラウンド、街づくり自体もそうだし、例えば、車ばかり使ってる県民に歩いてもらうような街をどうやったら作れるだろうかみたいな、そういうようなことも含めたことがさがデザインで、多くのクリエイターとかデザイナーに色々な提言をしてもらっています。

全てが取り入れられているわけではないので、みんなこっちが使うばっかというところも色々あったので、この前が勝手にプレゼンフェスということで、みんなもいつも行政から頼まれてコンペとか出ているけれども、自分たちでこの街をどうしたいかというのを自由に発露する場がほしいということだったので、白地の画用紙に、俺は、こういうことしたいというのを5分主張してもらって、あ、結構いいかもねっていうのがあったら、事業化の検討をするという、ちょっと今までにないような形をやっているということで、どうせ大切な県民の税金を使ってやる仕事なんで、どうせやるんであればこだわったものをしっかり光ったものにする努力をしっかりとやっていくこ

とが大事なのかなという風に思っていますので、これはもう市町のそれぞれで、それぞれお考えになることなただけけれども、是非色々な施策をやるときに、そういうところからアイデアを聞いてみたりするとですね、少なくとも何らかのコンセプトは必ず出してくるので、何となく出来てしまった箱ものみたいなのはなくなる。何となく作ってしまった標識っていうのもなくなる。それと、佐賀出身のクリエイターとかデザイナーとか芸術家、アーティストっていうのは、もうほんとありがたいことに佐賀県への思い入れが非常に強くて、佐賀のためやったらなんとしてでも力になってあげようという気持ちで満ち溢れているところがあるので、もう本当にありがたいことにそういった皆さん方の力も借りて、潤いのある県都を作っていきたい。最近だいぶそういう雰囲気になってきましたかね、市町も。

(峰唐津市長)

県の職員さんなのですか。

(さがデザイン 宮原参事)

はい、そうです。

(峰唐津市長)

市町がお借りしてもよろしいのですか。

(山口知事)

いいよ、別に。お借りするってどういう意味？

(峰唐津市長)

こういったことでこういうイメージがほしいのですけどっていうことで提案をさせていただいて、もし、あ、いいねっていうときは、成功報酬かなんかでいいんですか。

(さがデザイン 宮原参事)

デザイナーにということですか。

(峰唐津市長)

そうそう。

(さがデザイン 宮原参事)

もう成功報酬もほぼ払ってなくてですね、相談料みたいな1時間、ちょっと安いお金で東京から来てもらって、アドバイスをほとんどタダみたいな値段でやってもらって、そこは今、神崎市さんとかも実はクリエイターの人をちょっと紹介して、

市の課題に対しても少しずつお手伝いをし始めておりますので、よかったら言っただければ御紹介して、一緒に課題を。

(峰唐津市長)

職員が言っているのは、結構高いんですよ。単独で委託をすると、やっぱり専門の方たちの窓口になるんで、どうしても価格あっていくらってなるので、結果的のいくらっていう形の方がですね。

(山口知事)

それはね、たぶんビジネスライクにやっているから。ぼくらは普段から彼らと東京行ったらみんなでわーってやっているし、そういう佐賀愛とか、そういった佐賀出身であってもそういうところがまずベースにないと、違和感がでる。

(さがデザイン 宮原参事)

ゆくゆくはビジネスで委託とかコンペがあるかもしれないですけど、作り上げるとこは本当に同じ仲間でアドバイスを色々もらうというイメージです。

(山口知事)

繋がっているうちに、じゃあそれ一緒に組んでやろうかってクリエイター同士があるし、面白いことにこういう人たちって繋がるからね。どんどん、どんどん。有田焼のときに料理人が繋がったのと一緒で。

だから面白い習性というか、こっちが変なことさえしなければいい感じで予定調和みたいな感じで上手くまとまっていくので。こっちがすごく構えてビジネスだとかいう感じにしていくと向こうも構えてくるので。そのあたりは上手くこっちで紹介してあげたい。

(峰唐津市長)

一回、色々とお願ひしたい。

(山口知事)

変な理由に使おうとしてない。怪しいな。他、何かありますか。

(水川大町町長)

この県の公式葉書は何種類あるのですか。

(さがデザイン 宮原参事)

今、お配りしてもいいですか。白バージョンと緑バージョンがありまして、白バージョンがいわゆるみんなが知っている観光地みたいな感じなのですけれども。

(末安みやき町長)

中身は違うのですか。

(さがデザイン 宮原参事)

はい、違います。12枚ずつ入っています。こっちが有名どころですね。棚田ですとか、唐津くんちですとか。緑の方は一見、これどこだろうというようなところを集めて、絵葉書だけじゃなくて、実はウェブで見られるようになっておりまして、そのウェブを見ながら外国の方がそこを訪れるという仕掛けになっています。これも、もともと発注したときは、絵葉書作るだけだったのですが、やっぱりデザイナーがせっかく絵葉書作るならプロモーションもやりたいから、予算の中でやっていいかっていうことを向こうから提案されまして、ウェブも作って外国に向けて発信を今しているところです。

(山口知事)

ちょっとした風景撮って世界に発信したときに、もうそれを本当にみんなが共有して、わざわざその風景のためだけに来るような世界で、時代が変わったなあという感じですよ。昔みたいにパンフレットを駅前で配るといような時代ではない。

(水川大町町長)

これも各市町それぞれ自慢の風景とかあるかなと思うわけですよ。各市町に聞いてもらって、そこを撮ってもらえればいいかなと。それにプラスプロの方の感覚でもらえば、いい場所がさらに出てくるかなと思いますので。

(山口知事)

そういった情報は色々ほしいよね。この時期の雲がかかったこれがいいとか。

(さがデザイン 宮原参事)

県の観光連盟の事業になりますので、市町の観光協会さんとはお話ししながら、この町はこれでいこうみたいな話を。ただ、すみません。今回は24枚ですので、割と推しているものよりも、ちょっとデザイナーの方で。

(山口知事)

これ使ってもらわないといけないよね。宣伝のために。これも昔みたいに郵便番号の四角とかないから、そこがオシャレだからね。適宜自分でデザインしながら書くということで。

(横尾多久市長)

この写真は、プロのカメラマンの方が撮られたのですか

(さがデザイン 宮原参事)

佐賀市在住の水田さんというすごく若い。ご存じですかね。

(峰唐津市長)

ナショナルジオグラフィック。優秀賞。

(さがデザイン 宮原参事)

日本人で5番目に優秀賞取って。まだお願いしたときは、そこまでプロじゃなかったのですが、ちょっと青田買いで、すごいリーズナブルにやってもらって。

(横尾多久市長)

懸賞金 50 万から 100 万出して、佐賀県フォトコンテストをされたら綺麗なものがいっぱい集まりますよ。

(山口知事)

意外と佐賀県は動画とかでは結構面白い。嬉野の茶畑だってああやってシェフっぽい恰好でやっただけでガラッとイメージ変わって、舞台になってね、茶畑が。ホント見せ方一つだよ。同じことをやるにしても。あと特にありますか。今回は紹介という感じかな。

(さがデザイン 宮原参事)

何か御用命がありましたら、政策課というところにさがデザインがありますので、担当の方に言っていただければ、なんなりとお手伝いはいたします。

(山口知事)

僕は、佐賀県民の生き様みたいなものをすごくカッコいいとっていて、そこをしっかり出して行きたいなという、まっすぐな企画を。その見せ方で子供たちが佐賀すごいねって。都会なんかより佐賀の方が本当の価値があるねって分かってもらう展開にこれからしていきたいと思います。

(樋口鹿島市長)

ひとつお願いがあります。今の話で。是非、先生方にその話をしてください。首長がやっても、教育委員会の皆さんがそういう覚悟で子供たちに教えてもらわないと伝わらないのですよ。

(山口知事)

今回は初めて新採の先生にこの話をしたんです。4月に。つまらんとこよって子供

に言わないでねって。そこが変わると佐賀県の本来の価値がしっかり浮かび上がって出てくると思う。そういうことで、また取組等がありましたら、また色々と皆さんからも、また御紹介していただくこともあろうかと思えます。

6 フリートーキング

(事務局)

それでは、本日の次第の最後でございます。フリートーキングに入りたいと思います。本部分の進行についても山口知事をお願いします。

全国高等学校総合文化祭

(山口知事)

若干時間いただいて、フリートーキングの時間を使って、まず、全国高総文祭、先ほどの博覧会の際に言いましたけども、来年の平成30年3月から平成31年1月まで博覧会があって、その年の夏になると、全国高等学校総合文化祭佐賀大会がやってきます。簡単に言うと、インターハイの文化版。高校生の。佐賀県でやるのは初めてかな。

(事務局)

初めてです。

(山口知事)

初めてね。ということで、できる限り全県下でやってもらいたいなと思って、例えば、囲碁は鹿島でやってもらおうよなんて言いながらですね。これもできる限り、何かしらタッチできるようにという風をお願いして、今回、首長さんの方にもこの存在を知っておいていただきたいなという風に思っています。今日は何やるのだけ。動画か何か。

(事務局)

先催県の開催状況の動画がございます。

(山口知事)

じゃあ、やりましょう。紹介します。

～動画放映～ (約7分)

(山口知事)

首長さん方、皆さん分かっている。大丈夫ですね。一応、ここも申し合わせておかないと。博覧会が終わった年の夏にこれがあって、それが終わったらラグビーワールドカップがきて、合宿があって、そのあと東京オリンピックの年がきて、それが終わると新幹線の全線開業の準備をして、その翌年に国体がある。そのイメージで、全部連携しながら準備をしていく。次、お願いします。これはよろしくお願いします。

交通事故対策

(山口知事)

次は、毎回やっている交通事故です。こういうことで、交通安全県民運動を各市町も頑張ってもらっていておまして、今年も、7月11日～20日ということでやっております。前回もハイビームの話もしましたし、飲酒運転の根絶ですとか、3つの3運動とかもやっております。なかなか厳しい状況になっています。発生件数は減ってはいるけども、2位の静岡を追い越してという段階には至っていない。

それで、ちょっと今考えているのが、これは皆さんの意見を聞きたいのですが、大体、都心部からやってきた皆さん方が共通して言う課題が、「佐賀って右折するもんね、(片側)2重(車線)のところを。」って。佐賀では常識です。皆さん、御案内のとおり。交通法規上も問題ありません。確認済みです。ところが、やっぱり急に止まるものだから、ここで。右折しようと思って。ここ二重なのに。分かりますか。

皆さんは自然だと思っているからだけど、都市部だと、中央分離帯に壁があって、右折できない。その代わりに、反転して入り直します。どこか別のところでUターンして。佐賀の場合は、あんまり交通量がないということもあってか、どこからでも右折する。逆に言えば、どこかから出てくるときも、普通は、都会だと左にしか曲がれないものが、ずずずずっと右折するというパターンがあることが、例えば、南部バイパスだと半分ぐらいの追突事故の原因であることが、統計上も分かっているわけなんです。

難しいのは、県民の皆さん方はこれ使い勝手いいものだから、この仕掛けは。特に夜中なんかはほとんど車が走ってないので、何もないうきにわざわざ左行くというのもあれだから、右折したいわけで。だから、この辺りをどういう風にしていくのかと

というのが、実は一つの大きな課題なので、それこそ、これから佐賀も渋滞とか色んなところが出てくるとかいう話もあるのですが、特にこれは南部バイパスですけど、場合によっては、社会実験的に真ん中を若干塞がせてもらって、それで事故が減るのかどうかとか。まあ、そういったところ。

近隣住民からは、たぶん、何か言われるかもしれません。ところが、本当に人の命ということに向かいあうのであれば、少しずつでもそういうことをやりながら、やっていくということも、運動で旗を立てて、というのもいいけれど、本当に追突事故を減らそうと思えば、こういうことも真面目に考えなければいけないということを、今、考えて、県警なんかとも相談しながらやっていますので。

(横尾多久市長)

すみません、確認ですけど、真ん中を塞ぐということは、通れなくする。

(山口知事)

そう。右折できないように物理的にするのか…。

(横尾多久市長)

それとも、真ん中に1レーン設けとく、そこに止まってから曲がる。

(山口知事)

無理。例えば、ここは元々狭いところを無理やり2車線にしている、このバイパスは。なので、やるとすると、どのくらい減るかどうかの社会実験で、一定のところだけを区切って。

(横尾多久市長)

遠回りして。

(山口知事)

いわゆる遠回り。佐賀はあまりやっていないけども、その代わり、逆に言えば、反転することは、今は禁止なのを反転可にするようなことも考えるかどうか。

(横尾多久市長)

反転とかって、大丈夫じゃないですか。

(山口知事)

そんなようなことを、今から色々考えてみたらどうかなということなので、これはやっぱり、ある程度、皆さんの意見も聞いておきたいなど。こういうことをやるにおいては。

(松田基山町長)

道はいいけど、お店とかも全然遠回りしないといけないですね。

(山口知事)

いわゆる遠回りということはどう思うか。

(松本神埼市長)

そうするとですね、私ども 34 号の 4 車線化とか色々してもらってますよね。そうすると地区の者が何と言うかということですね、今、在来できているようなもの、要するに今まで 2 車線ですよ。それが 4 車線になる。そうすると、車だったらこういうこともあるかもわかりません、たぶん事故多いですから、なるほどと私も思います。ところが農家の方たちは、田んぼが向こうに、道路の対面にあるわけね。だから、皆が信号を付けてくれというわけですよ。安全に行けるように。要するに、農業用機械は車みたいにスムーズに行けませんから。そうすると、今言われた提案を聞いて私が思ったのは、信号なりなんなり、東西横断する、そのこのところをどこか作る距離を決めていただければ、こういう決まりはできるかなと。

(山口知事)

今日は、そういう議論のまさにキックオフなので、特に南部バイパスが多いので、とっかかりとして、まず実験をまずどっかから、2 か所ぐらいでいいから、スタートをしたいなど。全面的に全県でということは考えていないけども、やはり、少しずつ、県民の皆様方のあれも必要なんだよね。確かに。

(秀島佐賀市長)

やっぱり、どこかで我慢する部分を。

(山口知事)

交通事故を減らすという強い決意のためには、どのぐらい我慢できるかという。

(秀島佐賀市長)

あの通りよりも少し手前の方のところに、よく渋滞が生じる、右折するための。

(山口知事)

あと、意外とね、他所の県の車は、まさかここで止まると思わんわけ。ここなら分かる。ここで、普通に走っている車がいきなり「え、右折」。もう一個ある。これ。これも右折。うりうりうりっと出てくる。右折が。これ、むしろ、だから、報道機関の人なんか、転勤して来ている人なんかが多分分かるのじゃないかなと。

(秀島佐賀市長)

なんで佐賀は交通事故が多いかというのは、こういうものも災いしてるかも分からない。

(山口知事)

それはもう、数字に出とる。だから、もちろん、追突がすごく多くて、それがまた、これが原因であることが分かっている。

(横尾多久市長)

交通事故の頻繁な箇所を県警が分かっていますよね。こういうパターンのところだけ、先に実証的にやってみるとされたらいいのでは。

(山口知事)

いずれにしても実証するのが、最初は。やっぱり減ったとかなれば、皆の意識も変わってくる。北部バイパスは、仕切られてる。

(秀島佐賀市長)

北部バイパスは真ん中から仕切られている。

(山口知事)

だから、佐賀でも真ん中から仕切られているところは、(事故が)少ない。

(秀島佐賀市長)

南部バイパスは、前の車が右折で止まろうとすると、これを避けて、こっち方の車線へ、で、こっち方から来て。

(多良吉野ヶ里町長)

神埼署管内が、ワースト1。交代にやっています。片側2車線でもないのに。

(山口知事)

俺達も、5年連続、6年連続となっていて、皆で交通安全と言っているだけというわけにも、手をこまねいているわけにも。やっぱり、人の命も関係するので。少しずつ、こういったところにも、皆で考えていかんと。

(松本神埼市長)

不便さも出てきますよ。安全のためには不便さもありません。

(秀島佐賀市長)

今度の実験は、いわゆるあれで、右折できないように規制をかけるわけですよ。

(山口知事)

そう。何メーターか。やってみようかと。

(秀島佐賀市長)

きちんと規制をかけるならかけるとしておかないと。なんか、ポール立てただけじゃ。

(山口知事)

中央分離帯のあるところは、だから、少ない。というところで、違った話いくかな、大体、はい。

被災地支援

(山田江北町長)

すみません、よろしいでしょうか。

(山口知事)

はい。

(山田江北町長)

先日の北部九州豪雨の被災地支援というのでしょうか、昨年の熊本地震の時は、西原村に対口してということになっていたと思うのですが、私どもの江北町で言いますと、社会福祉協議会の方がですね、既にボランティアの派遣をしたいということで計画をされておられますが、派遣先をどこにするかということで、昨年のような、県として、例えば対口支援で西原村というような、県のある程度、方針みたいなものとか、今後の見込みがもしお分かりであれば、それを前提にといいましょうか、踏まえて、町としても色々と取組ができるけどなということ、社協の方から意見がきたもの、すから、県の方で、もし、お考えのようなものがあれば。

(山口知事)

少なくとも今回の災害で、組織的な県単位の斡旋は行われていなくて、そういうニーズが出てきていない。実際には、緊援隊で、緊援隊はやっているということで、あとは基本的には、福岡県が、そして九州地方知事会でそういう動きはない。もし、市町の中でそういう感じがあるのだったら、やられたらいいと思います。我々が、何度か聞いてみましたが、そういう話は、今は。

(水川大町町長)

支援の要望というのはないわけですね。

(峰唐津市長)

いいですか。実は、日田市に行ってきました。ユネスコの関係で、日田市の祇園とうちの曳山がユネスコに入ったので。日田市に行きましたら、もう物資もボランティアの方たちも十分に来ていただいていますということで。今後は復旧から復興に向けて動き出しますのでということで、そういった言い方だったのですよ。義捐金をいただきたいという話は少しあった。

(山口知事)

今回、だから、命の部分が大きくて、人が見えない、いなくなっているということで、私も日田の市長と話を、うちは日田に行ったからね。消防は。全力で救出活動を行ったんです。物資という言葉はほとんどなかった。もちろん、口頭なんかで、それぞれポイントポイントはあるのですけれど、県内の中での支援をやっていましたから。

(松田基山町長)

甘木鉄道というのがあって、朝倉市とつながっているので、電話では話したのですが、一応、来週、慰問に出張に行って、そういうニーズも含めてですね。最初、物を送ったのですが、すぐにオーバーフローしてということでしたので、その後の必要なことを含めて、ちょっと聞いてこようと思う。もし基山町だけでやりきれないような依頼を受けるようなことがあれば、また、御相談させていただければなあと思うのですけど。

(山口知事)

私も色んな現場に行きましたけど、基本的に3日間は命という原則をしっかりとっておかないと、物資の車とかって、正直言ってどうかというところもある。溜まり過ぎると、役場の前にすごく積まれます。それが逆に色んなものを塞いでしまっているところがあるので、結構難しい。もちろん、報道なんかで足りないところばかりが出てくるので、そういう、つい気持ちになりますけど、非常に難しい。動線上。

(松田基山町長)

タイムラグもありますしね。

(山口知事)

そう、タイムラグもある。何かが足りないというと、ほんとにわんさか配って、逆に腐って臭いがするようなこともままあったので。非常にその辺は悩ましいなど。いずれにしても物資の話がどうしても出てくるのだけど、やはり人の命なんですよ。最

初の段階は。そこを忘れないようにせんばいかんよと、知事会でも繰り返し発言してる。

高齢者免許返上

(松田基山町長)

短く1点だけ。折角交通事故の話が出てるので。いわゆる高齢者の免許の返上の話をこれから本格的に進めていこうと今思っているのですが。もちろんインセンティブも含めて考えていかなければいけないのですが、県とか他の自治体の方で何かそういう先進的な事例があれば、是非参考にしたいなと思っているので、何かそういうのはございませんか。

(山田江北町長)

杵島郡3町はそれこそ交通事故が多いということで、3町連携をしてですね、この4月から自主返納の取組をしまして、少し町でも違うのですけれども、江北町は年間6千円のタクシー券を向こう5年間差し上げるということで。やっぱりきっかけになった方がいるみたいです。やっぱり御本人としてもですね。

(松田基山町長)

やっぱりインセンティブですかね。どんなものを付けるかということですかね。

(山田江北町長)

今、バスタクシー協会の方で1割引をされていますよね。なかなかそれだけじゃあと言われるならということで、町ではさらにやっていますというようなことで。やっぱりきっかけにはなっている。

(多良吉野ヶ里町長)

吉野ヶ里は今デマンドタクシーをしています。それでだいたい町内ですけれども、片道300円。障害者の方と、返上した方は2分の1の150円で乗れるようにしています。

(山口知事)

今度、子育てタクシーは全県下でやらせてもらうので、あれは非常にみんな登録していただけるように、まだできていない市町もありますけれども、概ね全県下でできあがりつつあるので。それとあとちょっと一部の多胎の方とかに子育てタクシーを使ってもらおうような仕掛けを今検討しているわけです。もし、だから、ある程度みんなの話が盛り上がれば、高齢者の方も。

(多良吉野ヶ里町長)

免許返上者の人には150円で片道町内。

(山口知事)

返上したら何かメリットがあるという市町。(首長が手を挙げる) 半分くらいかな。

(秀島佐賀市長)

私のところも、バスのあれはさしてもらっている。

(多良吉野ヶ里町長)

コミュニティバスになると、バス停まで歩いて行って乗るけれども、帰りがけ荷物を持って歩いて帰りきれないという人たちが買い物難民になってしまうので、タクシーはもう子供から大人までみんな登録制です。今はもう六百何十人くらい登録していただいて、子どもだけでもちょっと登録しておけば、親がどこか塾に送らなければいけないではないけれど、駅まで送るとかっていうのが、それも可能にしていますので。

(山口知事)

早く、昼間の分安くさせてくれればいいのにね。

(松田基山町長)

今認可の問題があって。タクシー。

(山口知事)

うちも認可頼んだのですよ。国に。佐賀県は昼間そういう色々な活用したい人が多いので、昼間安くするように料金体系作ってもらうようにしよう、作らせてくれと。

(多良吉野ヶ里町長)

今吉野ヶ里町でちょっと言われているのが、隣の町の病院に行きたいけど、そのつながりがちょっと不便だというようなことで、買い物はそんなに限るけれども、病院だけでもそれができると非常にまだ。お年寄りなり、免許返上者も出てくるのじゃないかという気はしています。

(山口知事)

返上者は今何人いるの。

(多良吉野ヶ里町長)

うちはちょっと。

(山口知事)

あんまでも、何人くらい出ているって。

(山田江北町長)

20 何人って言っていました。この4月から。きっかけにはなっている。

(山口知事)

80 歳以上？

(山田江北町長)

いや、年齢は制限していなかったと思いますけれども。

(水川大町町長)

結構若い人もいる。

(山田江北町長)

それでもという方は、車を持っていない方が得だということも少し。なんか年間に50 万くらいかかるらしいのですよ。車代を年間で割ると、税金と燃料と保険代と。

(山口知事)

あー、維持費のことね。

(山田江北町長)

そう考えると、年間 50 万くらい浮くから、1 週間に1 万円くらいタクシー代使っても、まあ実は得なんだということですね。

(多良吉野ヶ里町長)

今デマンドタクシーを利用している人で、6 割が病院、その次が買い物。それ以外はほとんど役場とかなんとかなんですけど、やはり病院と買物が相当を占める。

(山田江北町長)

週2 回くらい利用されるのですか？

(多良吉野ヶ里町長)

いや、週何回とかも決めてない。

(山田江北町長)

いや、だいたい。動態というか、使われている実態がどのくらいなのかね。

(多良吉野ヶ里町長)

ちょっとそこまではですね。隣の病院まで可能よと言えば、利用者はもっと増えるんじゃないかと私は思っている。だからそれは陸運局というかその辺の縛りが、市町との隣のとかがあるみたいで。

(山口知事)

自分の制限区域の外まで行くのはいいけど、帰りは無理だよ。あっちが起点になるからね。

(副島副知事)

帰りはだめです。〇〇。途中で拾えばいいのですが、拠点では駄目です。

(秀島佐賀市長)

電話で呼ぶ。予約。

(多良吉野ヶ里町長)

予約制なので、それとだいたいルートの、乗合タクシーなので、目的が、駅なら駅まで行くのに、ちょっとこっちとこっちとあれば周っていくので、約束の時間がきちっと行けるかとうとそうではない。しかし、平均して2. 何人乗ってあります。

(松田基山町長)

なんか全国調べたら、法律的にそれを禁じている項目はないようです。どっちか片方がその地域であればですね。行きか帰りの片方が地域であれば。ただやっぱ結局その、法律的ではなくて、向こうのバス会社とかタクシー会社との関係とかそういうのは自治体が違うとやっぱエリアのあれがあるみたいなので、そういう話し合いの問題が結構深い。特に、普通のバスの路線があるようなところの地域に入りこんで行くにはちょっと大変です。

(末安みやき町長)

うちは相互協定結んで。

(山口知事)

協定結ぶと大丈夫なの。

(末安みやき町長)

久留米市と隣接しておりますので、久留米のコミュニティバスが乗り入れしています。みやき町の商業施設に。相互協定結んでいる。乗り入れ協定結んでやってもらっています。

(松田基山町長)

うち、乗り入れなんでもOKです。どんどん来てください。

(末安みやき町長)

自治体間で協定結んでやってもらおうと。

(多良吉野ヶ里町長)

乗り入れ協定がどういうふうなのかがちょっと私もまだ分からないが。吉野ヶ里は上峰さんの病院と神埼の病院に結構行かれているんで、買い物だけは町内で買ってくださーいというような縛りはかけていますけれども、病院だけあれすると6割近くが病院で利用されている。そうすると、さっきの返上者も結構出てくるのではなかろうかなと思う。

(末安みやき町長)

お互いで、相互乗り入れ協定して、費用を組んで。ただ、公共交通会議に一応諮りはする。

GM21 ミーティング

(秀島佐賀市長)

せっかくいい雰囲気になった時に、水を差すようなことですがね、GM21、今、年4回ですかね。4回の回数はちょっと多いのではなかろうかと。そこら辺のアンケートか、いくらか温度差あるかと思いますが、取ってもらってもいいのではないかと。

(山口知事)

今日は何回目だっけ。

(事務局)

今日で9回目でございます。

昨年度は5回。

(山口知事)

今年度は初めてなんだよね。どのくらいがよかですか。

(秀島佐賀市長)

個人的には、年に2回ぐらいが。これぐらいの間が空くの一番よくはないかと。それぞれ違うと思いますが。足りないという人もいるかも分からないし。

(山口知事)

アンケート取ってみる？私には非常に参考になっています。市町の皆様方が言うやつというのが我々のあれになっている、県の施策にそのままなっているところもあるので。私的には3回は欲しいなど。

(岩島太良町長)

町村会とも話をしたのですけどね、9回も開くのではなくして、年に2、3回GM

をやって、あとは実働部隊でこういう風なことをやってもらいたいなど提案をしていた。

(山口知事)

少な目でいいという話であれば、年3回以内ということはどうでしょうか。大体そんなもので。基本的に、やっぱり政治家同士が、とことん話をするのは大事なことだと思う。色んな、この前、医療の問題にしても、あれがきっかけで出来上がったこともあるので。

(末安みやき町長)

回数云々というよりテーマがですね。手持ちのネタがない。知事からこれがやりたいと言えば、皆喜んできますよ。市町から提案と言われても、それぞれまとまらないものですから我々。

(田島白石町長)

今日も結構タイムリーな、挨拶を、市長さんも、玄海町の町長さんも知事も災害のことを言われました。やっぱり、タイムリーで、流木が流れてきたのでどうしようか、そういうのをここで話しするのもいいかなと。最初からテーマを出してと言うと固まってしまうので、最初知事さんがこのGM21 やろうというのは、フランクに、皆、言いたい放題で、というのだったと思いますので、そういう風にやればですね。回数じゃなくても負担にならないような恰好で。

(山口知事)

そうしたら、今、最後にしゃべっているような自由な時間をまずとると。確かに続けていくとだんだんとルーティン化する、こういう会議は。もともとは自由にフラットに話す会議ということで始めましたけれども、つついなくなってしまいますので。あまり作りこみをしないことだよ。そうしたら。課長。

(事務局)

わかりました。

(山口知事)

基本的に、町長会、市長会からは、これをやらしてくれという話があった時には対応すると。これでよいか。基本的にはフラットにしておいて、うちはあるので。いくらでも話題は。だから、うちが交通事故もそうだけど、こうやって振って、皆の話を聞いて、あとはご自由に。それだったらよい。

(秀島市長)

まあ、それでも、一回ぐらい減らしてください。とりあえずやって、足らなければ、また増やしてもよろしいと思いますので。

(多良吉野ヶ里町長)

タイムリーにせんといけないこともあるかも分からない。

(山口知事)

どうしてもお願いせんといけない…。

(秀島市長)

急いでせんといけないようなものがあれば。

(山口知事)

うちがね、この前、熊本地震がピシッといったのは、これが行く前にこれがうまい具合にはまったからね。ただ、分かりました。発表がストレスになっていると。

(末安みやき町長)

町長会として、知事には何回も会いたい。会いたいけど、提案するのがですね。むしろ、県のほうから、知事から、こういうテーマで集まってくれと言ってくれればよろこんで。

(山口知事)

わかりました。負担軽減を図りますから。しかも、県が何か話題を振ったときに皆準備が大変だと言っているのも。

(末安みやき町長)

町で、県全体を統一するようなテーマはなかなか難しい。

(山口知事)

そういうのは、雑談の中で、今こういうことが起きているよということをいってもらって。

(基山町長)

今言っていることをサポートするが、去年の今頃、いっぺん、この話があって、出そうとして、幻に終わった回がある。

実は、今年のやつもそれをほとんど使っているだけなんですけど、去年に比べれば今年是非常に楽でございました。

(山口知事)

それは何か。

(基山町長)

去年は、すごい調整に時間が。結構詰められてしまって。今年は非常に楽でございましたので、そういう意味では、去年のイメージが皆様に残っているかもしれない。今は非常にいいかなという風に私は思います。去年のイメージが皆さんにあるのかなと。

(山口知事)

とりあえず、何の準備もいらんような会議にします。で、気軽にしゃべれるような。

(事務局)

確かに、過去に、県側で事務的に詰めすぎていた面があるかもしれません。そういったことは。

(山口知事)

なんとなく、皆、政治家だから、ほわんと話して、早く終わったら早く終わったで全然構わんしね。話すときはずっと話すし。だから、かっちり、あまり管理しないほうが。頼むね。

(事務局)

御意見承りまして。そろそろお時間の方が参りました。

以上で、本日予定の議事が終了いたしました。

これをもちまして、第9回佐賀県GM21 ミーティングを終了いたします。大変お疲れ様でした。